

- 問1 北条泰時が「御成敗式目」を定めた目的と、その内容についての説明として最も適切なものはどれですか。 (2022年 長野県公立入試 類似)
- 承久の乱の後に増えた土地をめぐる争いを、武士の慣習に基づいて公平に裁判するため。
 - 江戸幕府の支配を強めるために、大名が守るべき道徳や行動制限を厳格に定めるため。
 - 戦国大名が自らの領地内における独自の支配権を確立し、領民を統制するため。
 - 享保の改革の一環として、裁判の迅速化を図るために過去の判例を整理するため
- 問2 承久の乱において、敗れた後鳥羽上皇に対する処置と、その後の政治状況について述べた文として正しいものはどれですか。 (2020年 千葉県公立入試 類似)
- 後鳥羽上皇は隠岐に流され、幕府は朝廷の監視を強めるとともに、上皇側に味方した貴族や武士の所領を没収した。
 - 後鳥羽上皇は佐渡に流され、幕府は天皇を中心とする政治を認める代わりに、全国の税を徴収する権利を得た。
 - 後鳥羽上皇は土佐に流され、幕府は新たに「御成敗式目」を制定して朝廷と公家を守るべき法を定めた。
 - 後鳥羽上皇は伊豆に流され、幕府は朝廷の力を取り上げるために、京都に將軍の代理として鎌倉公方を置いた。
- 問3 曹洞宗の開祖である道元は、場所を選ばず「ひたすら座禅をすることである」と説きました。このような鎌倉新仏教の特徴と、普及の背景について説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2019年 群馬県公立入試 類似)
- 伝統を重視し、奈良時代からの古い教義をさらに複雑化したことで支持を得た。
 - 修行には膨大な費用と時間が必要であったため、富裕な商人の間でのみ流行した。
 - 生活の場や時間を問わずに行える修行法を提示し、民衆の生活に寄り添った。
 - 祈祷によって病気を治すといった、貴族向けの現世利益のみを追求した。
- 問4 古代の貴族中心の文化に対し、鎌倉時代以降の中世では武士の気風が強く反映された文化が発展しました。この時代、座禅によって自ら悟りを開こうとする教えが武士に広く受け入れられましたが、その主な理由として適切な説明を選んでください。 (2025年 岡山公立入試 類似)
- 質素で厳格な修行を重んじる教えが、当時の武士の生活態度や気風に合致していたため
 - 人形浄瑠璃のような演劇と結びつき、戦場での武士の活躍が広く語り継がれたため
 - 国学の普及にともない、日本古来の伝統や精神を重んじる武士が増加したため
 - 浮世草子に見られるような、町人の華やかな生活様式を武士が取り入れたため
- 問5 鎌倉時代の將軍と御家人の関係を示す「御恩」と「奉公」の仕組みについて、その具体的な内容を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2018年 長崎県公立入試 類似)
- 將軍が御家人の領地を保護する代わりに、御家人は軍役などの義務を負った。
 - 將軍が全国の土地を国有化し、御家人には功績に応じた給料を支払った。
 - 御家人が將軍に土地を寄進し、將軍がその土地を荘園として管理した。
 - 御家人が幕府に税を納める代わりに、將軍が御家人の官位を保証した。
- 問6 鎌倉幕府が置かれた鎌倉の地は、軍事的な防衛を強く意識した都市構造を持っていました。当時の鎌倉の地形的特徴と、それに関連した防衛の仕組みについて述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 山口公立入試 類似)
- 広大な盆地の中心に位置し、四方に張り巡らされた水路によって外敵の侵入を防いだ。
 - 三方を山に囲まれ南は海に面した地形で、山を切り開いた狭い通路のみを外部との連絡路とした。
 - 太宰府のように水城と呼ばれる大規模な堤防を築き、海から上陸する敵の攻撃を遮断した。
 - 平坦な土地に巨大な石垣と堀を幾重にも配置し、陸上交通の要所を完全に封鎖した。
- 問7 鎌倉時代初期、東大寺南大門の再建に伴って制作された、筋肉の隆起を強調し力強く構える姿が特徴的な彫刻作品の名称として正しいものを、次のうちから選んでください。 (2026年 富山公立入試 類似)
- 金剛力士像
 - 弥勒菩薩像
 - 釈迦如来像
 - 阿弥陀如来像
- 問8 鎌倉幕府が設置した「守護」と「地頭」の違いについて述べた文として、地頭の性質を正しく説明しているものはどれですか。 (2026年 千葉公立入試 類似)
- 荘園や公領といった単位ごとに細かく設置され、現地の年貢徴収を担った。
 - 原則として国ごとに一名設置され、大番催促などの軍事的な権限を持った。
 - 承久の乱の後に、後鳥羽上皇を監視するために京都に設置された。
 - 裁判の公平を期すために、御家人たちの訴訟を取り扱うために設置された。
- 問9 平安時代末期から鎌倉時代にかけての土地制度の変化について、地頭という用語を用いて正しく説明しているものはどれですか。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
- 源頼朝は、国ごとに任命された地頭を通じて、朝廷の国司が行っていた行政をすべて廃止させた。
 - 源頼朝は、平氏を滅ぼした後に全国の荘園や公領へ地頭を設置し、幕府が年貢の徴収に関与できるようにした。
 - 鎌倉幕府は地頭を貴族の中から選ぶことで、朝廷と幕府が共同で荘園を管理する体制を築いた。
 - 地頭は、全国の武士に領地を分け与える際の土地調査を行うことを唯一の目的として設置された。
- 問10 鎌倉幕府が滅亡に至るまでの背景と経緯について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。 (2022年 千葉県公立入試 類似)
- 元軍の襲来（元寇）の際に十分な恩賞を与えられなかったことで御家人が困窮し、幕府への不満が強めた後醍醐天皇や足利尊氏らによって倒された。
 - 承久の乱において朝廷軍が勝利し、その勢いに乗った新田義貞や足利尊氏が鎌倉の北条氏を滅ぼした。
 - 北条時頼が建長寺を建立して禅宗を広めたことにより、仏教勢力との対立が激化し、足利尊氏が天皇の命令を受けて幕府を滅ぼした。
 - 足利義満が日明貿易を独占したことと反発した有力な御家人たちが、後醍醐天皇を担ぎ出して1333年に鎌倉幕府を滅ぼした。
- 問11 鎌倉時代の中期ごろまで武士の間で行われていた、一人の父親が持っていた広い領地を複数の子供たちにそれぞれ小さな区画として引き継がせる相続方法を何といいますか。 (2026年 山口公立入試 類似)
- 分割相続
 - 単独相続
 - 永年私財法
 - 検地
- 問12 鎌倉時代後半、二度にわたる元軍の侵攻（元寇）を退けた後、幕府の支配体制は揺らぎ始めました。戦いには勝利したものの、幕府に仕える「御家人」の生活が困窮し、不満が高まった理由として最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 秋田県公立入試 類似)
- 防衛のための戦いであったため、幕府は恩賞として御家人に分け与える新たな土地を確保できなかった。
 - 元軍に勝利したことで宋との貿易が途絶え、物資が不足して急激なインフレーションが起きた。
 - 幕府が御家人よりも足輕を優遇する軍制改革を行ったため、伝統的な武士の特権が失われた。
 - 元軍との戦いにおいて、幕府が御家人に領地の半分を返還させる「徳政令」を強制的に出した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 承久の乱の後に増えた土地をめぐる争いを、武士の慣習に基づいて公平に裁判するため。	鎌倉幕府の支配力が西日本まで拡大した結果、御家人同士や地頭と貴族の間で土地紛争が多発しました。泰時は、武士たちが納得できる公平な裁判を行うため、それまでの武士社会の慣習（道理）を法としてまとめました。なお、他の選択肢は順に「武家諸法度」「分国法」「公事方御定書」の説明です。
問2	答え 1 後鳥羽上皇は隠岐に流され、幕府は朝廷の監視を強めるとともに、上皇側に味方した貴族や武士の所領を没収した。	乱の結果、後鳥羽上皇は島根県の隠岐島に流刑となりました。幕府は上皇側に加担した貴族や武士の領地3000か所余りを没収し、手柄を立てた御家人を新たに地頭（新補地頭）として任命しました。これにより、それまで朝廷の影響力が強かった西日本においても、幕府の支配が急速に浸透することとなりました。
問3	答え 3 生活の場や時間を問わずに行える修行法を提示し、民衆の生活に寄り添った。	道元が説いた「只管打坐（しかんたざ）」のように、特定の場所や難しい学問を必要とせず、ただ一つの行いに打ち込むという姿勢は、鎌倉新仏教に共通する特徴です。旧来の仏教が厳しい戒律や多額の寄付を求めたのに対し、日々の生活で忙しい民衆でも実践できる形式をとったことが、武士や庶民への急速な普及に繋がりました。
問4	答え 1 質素で厳格な修行を重んじる教えが、当時の武士の生活態度や気風に合致していたため	鎌倉時代に中国から伝わった禅宗は、座禅という厳しい修行を通じて悟りを開くことを目指しました。この教えが、無駄を省き実力を重んじる武士の質素・厳格な気風に適していたため、幕府の保護を受けて広まりました。人形浄瑠璃、国学、浮世草子はいずれも江戸時代の文化や学問に関連する用語であり、中世の武士の文化とは時代背景が異なります。
問5	答え 1 将軍が御家人の領地を保護する代わりに、御家人は軍役などの義務を負った。	鎌倉幕府の主従関係は、土地を介した双務的な関係です。将軍は「御恩」として、御家人の領地（本領）を保証したり、新たな領地を与えたりしました。その見返りとして、御家人は「奉公」として、戦時に軍勢を率いて駆けつける軍役や、京都や鎌倉を警護する番役を負担しました。このように、土地の保証を対価として義務を果たす仕組みを封建制度といいます。
問6	答え 2 三方を山に囲まれ南は海に面した地形で、山を切り開いた狭い通路のみを外部との連絡路とした。	鎌倉は、三方の山が城壁の役割を果たし、南の海が堀の役割を果たすという、要塞としての機能を持った都市でした。陸路で外部とつながる場所は、山を切り開いて造られた「切通し」と呼ばれる非常に狭い通路に限定されていました。これにより、敵の軍勢が一斉に攻め込むことを難しくし、少ない兵力でも都市を守りやすくする工夫がなされていました。選択肢にある「広大な盆地」や「水城」は、鎌倉の地形的特徴とは一致しません。
問7	答え 1 金剛力士像	鎌倉時代初期の文化は、武士の台頭を背景に、力強く写実的な表現が好まれました。東大寺南大門に安置されている金剛力士像は、その力強さを象徴する代表的な作品です。阿弥陀如来像などは主に平安時代後期の浄土信仰において多く作られました。
問8	答え 1 荘園や公領といった単位ごとに細かく設置され、現地の年貢徴収を担った。	守護と地頭は、配置される地理的単位と役割が異なります。守護は「国」単位で置かれた軍事・警察的な役職であるのに対し、地頭はより狭い「荘園（私有地）」や「公領（国衙領）」ごとに置かれた、経済的・実務的な土地管理職でした。この地頭の配置によって、幕府の支配力が全国の隅々まで及ぶことになりました。
問9	答え 2 源頼朝は、平氏を滅ぼした後に全国の荘園や公領へ地頭を設置し、幕府が年貢の徴収に関与できるようにした。	歴史的な変遷を整理すると、1185年に源頼朝が守護・地頭を設置したことが大きな転換点です。これにより、荘園や公領において従来からいた荘園領主や国司の力が弱まり、代わって幕府から派遣された地頭（武士）が現地で実質的な支配力を高めていくことになりました。これは、武家社会が形成される過程で非常に重要な出来事です。
問10	答え 1 元軍の襲来（元寇）の際に十分な恩賞を与えられなかったことで御家人が困窮し、幕府への不満を強めた後醍醐天皇や足利尊氏らによって倒された。	鎌倉幕府は元寇後の恩賞問題などで御家人の支持を失い、政治的な混乱に陥っていました。この隙を突いて後醍醐天皇が倒幕を呼びかけ、これに呼応した足利尊氏や新田義貞などの有力な御家人の離反を招いたことが決定打となりました。建長寺を建立した北条時頼は5代執権であり、幕府の全盛期に近い時代の人物です。また、足利義満は室町幕府の全盛期を築いた将軍であり、時代設定が異なります。
問11	答え 1 分割相続	鎌倉時代の武士の世界では、領地を子供たちに分けて継承させる「分割相続」が一般的でした。しかし、この方法を何代も繰り返すと、一人ひとりが受け継ぐ領地は次第に細分化されて狭くなっていきます。これが、御家人の経済的な基盤を弱める大きな要因となりました。
問12	答え 1 防衛のための戦いであつたため、幕府は恩賞として御家人に分け与える新たな土地を確保できなかった。	鎌倉幕府の主従関係は、将軍が領地を保証・支給する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」で成り立っていました。しかし、元寇は外国からの侵略を阻止する防衛戦であり、勝利しても奪える敵地がなかったため、莫大な戦費を負担した御家人に十分な恩賞を出すことができませんでした。これが幕府への忠誠心を低下させ、倒幕への動きに繋がりました。

問1 鎌倉時代に制定された「御成敗式目（貞永式目）」について、その制定の背景や内容として正しい説明はどれですか。 （2026年 富山公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 執権の北条泰時が、御家人たちの間で増えていた領地争いの裁判を、武士の慣習に基づいて公平に裁くために定めた。 | 2. 江戸幕府の将軍が、全国の大名を統制するために、城の修理の制限や参勤交代の義務などを定めた。 | 3. 聖徳太子が、官吏としての心得を説くとともに、仏教を敬い天皇の命令に従うことを求めて定めた。 | 4. 徳川吉宗が、裁判の基準を統一して能率的に処理するために、過去の判例などをまとめた法律として定めた。 |
|--|--|--|--|

問2 1232年に制定された法典の条文において、諸国の「守護」が担当すべき職務として限定された内容の組み合わせとして正しいものはどれですか。 （2024年 福島県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------------------------------------|----------------------------|--------------------------|----------------------------|
| 1. 御家人への京都警備（京都大番役）の催促と、謀反人や殺人人の取り締まり | 2. 国内の農民からの年貢徴収と、耕作地の管理・開発 | 3. 国分寺の建立と、仏教を通じた地方の治安維持 | 4. キリスト教の布教禁止の徹底と、外国船の打ち払い |
|---------------------------------------|----------------------------|--------------------------|----------------------------|

問3 大モンゴル国の皇帝から送られた国書への対応に追われていた時期の鎌倉幕府の状況として、当時の年表の内容と合致する説明はどれか。 （2024年 大分県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 北条泰時が武士の裁判基準として御成敗式目を制定した1232年から、約40年ほど経過した時期であった。 | 2. 源頼朝が諸国に守護・地頭を設置し、鎌倉幕府が成立して間もない1185年頃の出来事であった。 | 3. 元寇の軍役負担で借金に苦しむ御家人を救うため、幕府が「永仁の徳政令」を發布した1297年以降の出来事であった。 | 4. 後醍醐天皇や足利尊氏らの動きによって、鎌倉幕府が滅亡に向かっていった1333年直前の出来事であった。 |
|---|--|--|---|

問4 鎌倉幕府が滅亡に至るまでの背景と経緯について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。 （2022年 千葉県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 元軍の襲来（元寇）の際に十分な恩賞を与えられなかったことで御家人が困窮し、幕府への不満を強めた後醍醐天皇や足利尊氏らによって倒された。 | 2. 承久の乱において朝廷軍が勝利し、その勢いに乗った新田義貞や足利尊氏が鎌倉の北条氏を滅ぼした。 | 3. 北条時頼が建長寺を建立して禅宗を広めたことにより、仏教勢力との対立が激化し、足利尊氏が天皇の命令を受けて幕府を滅ぼした。 | 4. 足利義満が日明貿易を独占したことと反発した有力な御家人たちが、後醍醐天皇を担ぎ出して1333年に鎌倉幕府を滅ぼした。 |
|--|---|---|---|

問5 鎌倉幕府が元軍による襲来に備え、また襲来後の防衛体制を強化するために、鎌倉から九州へかけての迅速な情報伝達を目的として整備・延長した制度の名称として正しいものはどれですか。 （2024年 広島公立入試 類似）

- | | | | |
|-------|---------|-------|-------------|
| 1. 駅制 | 2. 参勤交代 | 3. 検地 | 4. 守護・地頭の設置 |
|-------|---------|-------|-------------|

問6 鎌倉幕府において、将軍と御家人の間に結ばれた、土地を媒介とした主従関係を何と呼びますか。 （2018年 高知公立入試 類似）

- | | | | |
|----------|-----------|---------|---------|
| 1. 御恩と奉公 | 2. 寄進地系荘園 | 3. 封建制度 | 4. 執権政治 |
|----------|-----------|---------|---------|

問7 13世紀後半、モンゴル帝国（元）が二度にわたって日本へ侵攻してきた「元寇」の際、鎌倉幕府の最高責任者として、九州の御家人らへ軍役の指示を出し、京都や鎌倉の警備を指揮した人物は誰ですか。 （2021年 福島県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|---------|------------|--------|
| 1. 北条時宗 | 2. 北条泰時 | 3. フビライ・ハン | 4. 源頼朝 |
|---------|---------|------------|--------|

問8 鎌倉時代中期、当時の巨大帝国であった元が日本に服従を求めてきた際、その要求を拒絶し、幕府の最高責任者である執権として大規模な防衛体制を敷いた人物は誰ですか。 （2022年 香川公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|---------|---------|--------|
| 1. 北条時宗 | 2. 北条時政 | 3. 足利尊氏 | 4. 源頼朝 |
|---------|---------|---------|--------|

問9 鎌倉時代、宋（中国）で学んだ僧侶の道元が日本に伝え、ひたすら座禅を組むことで悟りを開こうとする教えを何といいますか。 （2024年 長野県公立入試 類似）

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 臨済宗 | 2. 曹洞宗 | 3. 浄土宗 | 4. 日蓮宗 |
|--------|--------|--------|--------|

問10 平安時代から鎌倉時代にかけての宗教の変遷について述べた文章のうち、正しいものはどれですか。当時の状況として、平安時代には阿弥陀如来を信じてその名を唱える修行が普及し、鎌倉時代には自らの力で悟りを開く修行が武士の間で支持された背景をふまえて答えなさい。 （2024年 福井公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 平安時代には浄土教による念仏が広まり、鎌倉時代には禅宗による座禅が広まった。 | 2. 平安時代には禅宗による座禅が広まり、鎌倉時代には浄土教による念仏が広まった。 | 3. 平安時代には祈祷による加持祈祷が広まり、鎌倉時代には写経による供養が広まった。 | 4. 平安時代には写経による供養が広まり、鎌倉時代には祈祷による加持祈祷が広まった。 |
|---|---|--|--|

問11 鎌倉時代、幕府を支える御家人の生活が困窮し、徳政令が出される背景となった社会的な要因について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 （2023年 福岡県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 領地を子に分割して相続させたことで、代を重ねるごとに一人あたりの領地が小さくなった。 | 2. 貨幣経済が浸透したことで、農村での年貢の取り立てを厳しくせざるを得なくなった。 | 3. 一人の嫡子にすべての領地を相続させる仕組みが普及し、一族内の対立が激化した。 | 4. 幕府が御家人に対して全国一律の重い税を課したことで、農村経営が行き詰まった。 |
|---|--|---|---|

問12 鎌倉時代の将軍と御家人の関係を示す「御恩」と「奉公」の仕組みについて、その具体的な内容を説明した文として最も適切なものはどれですか。 （2018年 長崎県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 将軍が御家人の領地を保護する代わりに、御家人は軍役などの義務を負った。 | 2. 将軍が全国の土地を国有化し、御家人には功績に応じた給料を支払った。 | 3. 御家人が将軍に土地を寄進し、将軍がその土地を荘園として管理した。 | 4. 御家人が幕府に税を納める代わりに、将軍が御家人の官位を保証した。 |
|--|--------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|

問13 鎌倉時代中期以降、それまで一般的であった領地の分割相続が御家人の生活を苦しめる要因となった背景について、最も適切な説明はどれですか。 （2025年 鹿児島公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 代を重ねるごとに一人あたりの領地が細分化され、軍役の負担に見合う収入が得られなくなったため | 2. 幕府がすべての領地を回収し、長男以外の子供には領地を与えない単独相続を強制したため | 3. 元寇の恩賞として大量の領地が配分された結果、管理コストが膨らみ生活が破綻したため | 4. 貨幣経済が浸透し、領地から得られる農作物の価値が急落して分割相続が不可能になったため |
|--|--|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 執権の北条泰時が、御家人たちの間で増えていた領地争いの裁判を、武士の慣習に基づいて公平に裁くために定めた。	鎌倉時代初期の武士の間では、土地の境界や所有権をめぐる紛争が絶えませんでした。北条泰時は、それまでの貴族の法律（律令）ではなく、武士の実情に合わせた裁判基準を成文化することで、幕府の裁判に対する信頼を高めようとしてしました。この法律は、後の室町幕府や戦国大名の分国法にも大きな影響を与えました。
問2	答え 1 御家人への京都警備（京都大番役）の催促と、謀反人や殺害人の取り締まり	鎌倉幕府は守護の権限が拡大して荘園領主と対立することを防ぐため、守護の職務を「大犯三箇条（だいほんさんかじょう）」などに限定しました。具体的には、京都を警備する御家人に動員をかけることや、謀反人・殺人犯などの重大犯罪者の逮捕が主な役割とされました。
問3	答え 1 北条泰時が武士の裁判基準として御成敗式目を制定した1232年から、約40年ほど経過した時期であった。	フビライ・ハンの最初の国書が日本に届いたのは1268年であり、これは1232年の御成敗式目制定から約36年後のことです。この時期は鎌倉時代中期にあたります。1185年は幕府成立期、1297年の徳政令は元寇による恩賞問題が深刻化した後のこと、1333年は幕府滅亡の年であるため、いずれも国書が届いた時期（元寇の前兆）とは異なります。
問4	答え 1 元軍の襲来（元寇）の際に十分な恩賞を与えられなかったことで御家人が困窮し、幕府への不満を強めた後醍醐天皇や足利尊氏らによって倒された。	鎌倉幕府は元寇後の恩賞問題などで御家人の支持を失い、政治的な混乱に陥っていました。この隙を突いて後醍醐天皇が倒幕を呼びかけ、これに呼応した足利尊氏や新田義貞などの有力な御家人の離反を招いたことが決定打となりました。建長寺を建立した北条時頼は5代執権であり、幕府の全盛期に近い時代の人物です。また、足利義満は室町幕府の全盛期を築いた將軍であり、時代設定が異なります。
問5	答え 1 駅制	元軍の襲来（元寇）という対外的な危機に直面した鎌倉幕府は、九州での合戦の様子を速報し、幕府の命令を迅速に届けるために、馬などを中継して連絡を行う「駅制」を九州まで延長しました。これにより、広範囲にわたる軍事指揮が可能となりました。
問6	答え 1 御恩と奉公	鎌倉時代の武士社会を支えた基本的な仕組みです。將軍が御家人の所領支配を認めたり新たな土地を与えたりする行為と、それに対して御家人が忠誠を誓い、軍役や警備の負担を負うという双方向の関係を指します。この関係は、単なる精神的な絆ではなく、土地の所有権という実質的な利益を介して成立していました。
問7	答え 1 北条時宗	鎌倉幕府の第8代執権であった北条時宗は、元の皇帝であるフビライ・ハンの服従要求を拒否し、文永の役・弘安の役の二度にわたる襲来に対して防衛体制を整えました。この際、幕府の権限を強め、九州に所領を持つ御家人たちに石築地（元寇防壁）の築設や警備を命じるなど、強力なリーダーシップを発揮しました。
問8	答え 1 北条時宗	鎌倉幕府の第8代執権である北条時宗は、モンゴル帝国（元）のフビライ・ハンからの通告を断固として拒否しました。日本史上最大の危機の一つとされる元寇に対し、九州の警備を強化する「異国警固番役」を設置するなど、武士を統率して防衛を指揮しました。
問9	答え 2 曹洞宗	道元は宋での修行を経て日本に帰国し、越前（現在の福井県）に永平寺を建立して曹洞宗を広めました。同じく座禅を重視する臨済宗が幕府や上層武士に支持されたのに対し、曹洞宗は地方の武士や民衆の間に広まったという特徴があります。
問10	答え 1 平安時代には浄土教による念仏が広まり、鎌倉時代には禅宗による座禅が広まった。	平安時代中期から後期にかけて、阿弥陀如来を信じて「南無阿弥陀仏」と唱えることで極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土教（念仏）が貴族から民衆へと普及しました。これに対し、鎌倉時代には中国から禅宗が伝わり、自ら座禅を組む修行によって悟りを開こうとする教えが、規律を重んじる武士の気風に受け入れられ、幕府の保護を受けて発展しました。
問11	答え 1 領地を子に分割して相続させたことで、代を重ねるごとに一人あたりの領地が小さくなった。	鎌倉時代初期、武士の間では「分割相続」という、子に領地を分けて継承させる仕組みが一般的でした。しかし、この方法を繰り返すと、世代交代のたびに個々の武士が持つ領地が細分化され、収益が減少して生活が苦しくなりました。これに加え、元寇による軍役の負担や貨幣経済の広がりによる借金が重なり、御家人は困窮しました。幕府は借金を帳消しにする「徳政令」を出して救済を図りましたが、かえって経済の混乱を招くこととなりました。
問12	答え 1 將軍が御家人の領地を保護する代わりに、御家人は軍役などの義務を負った。	鎌倉幕府の主従関係は、土地を介した双務的な関係です。將軍は「御恩」として、御家人の領地（本領）を保証したり、新たな領地を与えたりしました。その見返りとして、御家人は「奉公」として、戦時に軍勢を率いて駆けつける軍役や、京都や鎌倉を警護する番役を負担しました。このように、土地の保証を対価として義務を果たす仕組みを封建制度といいます。
問13	答え 1 代を重ねるごとに一人あたりの領地が細分化され、軍役の負担に見合う収入が得られなくなったため	分割相続は、代を経るごとに個々の御家人が持つ領地を零細化させました。これに加え、蒙古襲来（元寇）での軍役負担が重なったにもかかわらず、防衛戦であったために新たな領地が与えられなかったことが、御家人の困窮に拍車をかけました。これにより、後の時代には領地を分散させない「単独相続」へと変化していくことになります。

- 問1 13世紀後半、モンゴル帝国（元）による二度の日本侵攻、いわゆる「元寇」が起きました。この国家の危機に際し、鎌倉幕府の第8代執権として、全国の御家人を指揮して防衛を主導した人物は誰ですか。 （2026年 愛媛公立入試 類似）
1. 北条時宗 2. 北条泰時 3. 足利義満 4. 源頼朝
- 問2 鎌倉時代末期、生活が困窮した武士などが幕府や荘園領主の支配に従わなくなり、武装して年貢を奪うなどの抵抗活動を行うようになりました。このような、既存の支配体制を乱した集団を当時の領主側は何と呼びましたか。 （2018年 茨城県公立入試 類似）
1. 悪党 2. 蝦夷 3. 公領 4. 御家人
- 問3 武家政権の歴史において、鎌倉幕府を創設した源氏の棟梁として、のちに室町幕府を開いた足利尊氏や、平安時代末期に権勢を誇った平清盛と区別される人物は誰ですか。 （2021年 岩手県公立入試 類似）
1. 源頼朝 2. 平清盛 3. 豊臣秀吉 4. 足利尊氏
- 問4 元寇の際、博多湾に防塁を築くなどの防衛策を指揮した人物と、その拠点となった場所の組み合わせとして適切なものはどれですか。 （2015年 佐賀公立入試 類似）
1. 北条時宗 － 博多湾の沿岸 2. 北条泰時 － 相模湾の沿岸 3. 源頼朝 － 志摩半島の沿岸 4. 足利尊氏 － 瀬戸内海の沿岸
- 問5 鎌倉幕府が「六波羅探題」という機関を新たに設置した目的と、その背景にある出来事の説明として最も適切なものを選びなさい。 （2016年 茨城県公立入試 類似）
1. 後鳥羽上皇が倒幕の兵をあげた承久の乱の後、朝廷を監視し西日本の統治を強化するため 2. モンゴル帝国の襲来（元寇）に備え、九州沿岸の警備と西国武士の指揮を執るため 3. 源頼朝が征夷大將軍に任命された際、京都の公家との外交交渉を円滑に進めるため 4. 室町幕府の内紛である観応の擾乱を受け、京都の治安維持を専門に行うため
- 問6 鎌倉時代に起こった出来事について、その背景や目的を含めた時系列の組み合わせとして正しいものはどれか。承久の乱後の朝廷監視、武家独自の裁判基準の作成、元との戦いにおける指導者の登場、御家人の困窮への対策という順序で考えなさい。 （2024年 山形公立入試 類似）
1. 六波羅探題の設置 → 御成敗式目の制定 → 北条時宗の執権就任 → 永仁の徳政令 2. 御成敗式目の制定 → 六波羅探題の設置 → 北条時宗の執権就任 → 永仁の徳政令 3. 六波羅探題の設置 → 北条時宗の執権就任 → 御成敗式目の制定 → 永仁の徳政令 4. 北条時宗の執権就任 → 六波羅探題の設置 → 永仁の徳政令 → 御成敗式目の制定
- 問7 北条氏が執権として実権を握っていた鎌倉時代、農業技術の向上によって広まった、同じ田畑で米と麦を交互に生産する栽培方法と、当時用いられた肥料の組み合わせとして正しいものを選択してください。 （2023年 茨城県公立入試 類似）
1. 二毛作を行い、草や木を焼いた灰を肥料として利用した 2. 二毛作を行い、干し鰯や油かすを肥料として購入した 3. 三毛作を行い、家畜の糞尿を加工した堆肥を肥料とした 4. 輪作を行い、海外から輸入された化学肥料を利用した
- 問8 1221年に起こった承久の乱について、その背景と内容を説明した文として最も適切なものはどれか、次のうちから選びなさい。 （2019年 香川公立入試 類似）
1. 源氏の将軍が途絶えた後の幕府の混乱を見て、後鳥羽上皇が政治の実権を取り戻そうと挙兵した。 2. 平氏の勢力が強まったことに不満を持った後鳥羽上皇が、源氏と協力して平氏を倒した。 3. 北条氏の執権政治に反対した足利尊氏が、後醍醐天皇と協力して幕府を滅ぼした。 4. 源頼朝が死んだ直後、朝廷内で権力争いが起こり、上皇が武士を排除するために兵をあげた。
- 問9 鎌倉時代において、3代執権の北条泰時が制定した、武士社会の慣習に基づいて裁判の基準を明確にした法典の名称を答えなさい。 （2025年 栃木公立入試 類似）
1. 御成敗式目 2. 武家諸法度 3. 養老律令 4. 十七条の憲法
- 問10 鎌倉時代に宋から日本へ伝えられた「禅宗」は、それまでの仏教と異なり、座禅による修行を通じて自分自身の力で悟りを開こうとするものでした。この禅宗のうち、福井県に永平寺を建てて「曹洞宗」を広めた人物として正しいものは誰ですか。 （2021年 山口公立入試 類似）
1. 栄西 2. 道元 3. 親鸞 4. 一遍
- 問11 鎌倉幕府における将軍と御家人の関係において、将軍が御家人に対して行う「御恩」の具体的な内容として、最も適切な説明はどれですか。 （2017年 和歌山公立入試 類似）
1. 将軍の命を受けて、幕府の警備や合戦への参戦を行うこと 2. 将軍から、先祖伝来の領地の支配を認められたり、新たな領地を与えられたりすること 3. 将軍によって各国に配置され、国内の軍事・警察権を行使すること 4. 将軍から任命され、荘園や公領の管理と年貢の徴収を行うこと
- 問12 鎌倉時代、承久の乱のあとに領地をめぐる争いが増えたことを受け、三代執権の北条泰時が制定した武家独自の法律を何といいますか。 （2026年 三重公立入試 類似）
1. 御成敗式目（貞永式目） 2. 十七条の憲法 3. 武家諸法度 4. 建武の新政
- 問13 鎌倉時代初期、後鳥羽上皇が朝廷の文化的な伝統を誇示し、台頭する武士に対抗する意図を込めて編纂を命じた勅撰和歌集はどれか。 （2016年 香川公立入試 類似）
1. 万葉集 2. 古今和歌集 3. 新古今和歌集 4. 金槐和歌集
- 問14 鎌倉時代の武士の家において、それまで行われていた「分割相続」には、ある重大な社会的な弊害がありました。その内容として正しいものはどれですか。 （2022年 静岡公立入試 類似）
1. 世代交代を繰り返すたびに一族の領地が細分化され、生活が困窮する武士が増えた。 2. 長男のみがすべての領地を継ぐようになったため、次男以下の不満が高まり反乱が頻発した。 3. 幕府が土地の売買を全面的に許可したため、有力な商人にすべての領地が買い占められた。 4. 土地を分割する際に面積ではなく収穫量で分けたため、気候変動による飢饉の影響を強く受けるようになった。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 北条時宗	鎌倉幕府の最高責任者である執権の地位にあり、フビライ・ハン率いる元軍の襲来に対して徹底抗戦の構えを貫きました。九州の博多湾沿岸に石築地（元寇防塁）を築かせるなど、大規模な防衛体制を整えたことで知られています。選択肢にある北条泰時は3代執権、源頼朝は初代将軍、足利義満は室町幕府の第3代将軍です。
問2	答え 1 悪党	鎌倉時代後半、分割相続による領地の細分化や、元寇（モンゴル襲来）後の恩賞不足によって、多くの武士の生活が苦しくなりました。その中で、幕府や荘園領主の命令に従わず、実力で年貢を奪ったり武装して反抗したりする勢力が現れました。領主側は彼らを既存の秩序を破る「悪」の集団と見なしてこのように呼びました。
問3	答え 1 源頼朝	1185年に守護・地頭を設置する権限を認めさせ、1192年には征夷大將軍に就任して鎌倉幕府の体制を整えました。平清盛は武士として初めて太政大臣となりましたが、その政権は貴族的な性格を強く残していました。足利尊氏はのちの南北朝時代に室町幕府を開いた人物です。
問4	答え 1 北条時宗 – 博多湾の沿岸	モンゴル軍の襲来に対し、鎌倉幕府の8代執権である北条時宗は、九州に所領を持つ御家人だけでなく、本来は幕府の支配下になかった公家領の底本（非御家人）に対しても異国警固番役を課すなどして、博多湾の防衛体制を強化しました。幕府はその後も三度目の襲来を警戒し、防塁の修復や警備を継続しました。
問5	答え 1 後鳥羽上皇が倒幕の兵をあげた承久の乱の後、朝廷を監視し西日本の統治を強化するため	承久の乱以前の幕府は、主に関東を中心とした支配を行っていましたが、乱の勝利によって西日本にも大きな支配力を持つようになりました。朝廷による倒幕の動きを二度と許さないよう、監視の拠点として六波羅探題を設置し、西日本の地頭の統制や裁判も担わせることで、幕府による全国支配が強まるきっかけとなりました。
問6	答え 1 六波羅探題の設置 → 御成敗式目の制定 → 北条時宗の執権就任 → 永仁の徳政令	鎌倉時代は1221年の承久の乱を経て、京都に朝廷を監視する六波羅探題が置かれたことで幕府の支配力が全国に及びました。その後、1232年に北条泰時が武士の慣習に基づいた御成敗式目を制定し、公正な裁判の基準を確立しました。時代が下ると、元（モンゴル帝国）の侵攻に際して北条時宗が執権として指揮を執りましたが、戦後の恩賞不足や貨幣経済の浸透で御家人が困窮したため、1297年に借金の帳消しを命じる永仁の徳政令が出されました。
問7	答え 1 二毛作を行い、草や木を焼いた灰を肥料として利用した	鎌倉時代には農業生産力を高める工夫が進み、1年の間に同じ土地で米と麦を交互に作る「二毛作」が西日本を中心に広まりました。また、肥料として草木を焼いた「草木灰（そうもくはい）」や、刈り取った草を地中に埋めて腐らせた「刈敷（かりしき）」などが使われるようになったことで、収穫量が増大しました。
問8	答え 1 源氏の将軍が途絶えた後の幕府の混乱を見て、後鳥羽上皇が政治の実権を取り戻そうと挙兵した。	鎌倉幕府の3代将軍・源実朝が暗殺され、源氏の正統が途絶えたことで幕府の結束が弱まったと判断した後鳥羽上皇は、倒幕の宣旨を下しました。しかし、北条政子が「頼朝の恩義」を御家人たちに訴えたことで幕府側が団結し、上皇側は敗北して隠岐に流される結果となりました。
問9	答え 1 御成敗式目	1232年（貞永元年）に北条泰時が制定した日本初の武家法です。承久の乱の後、幕府の支配力が広がる中で増加した土地争いなどの裁判を公平に行うため、武士社会の道徳や慣習をもとに作られました。後の時代の武家法の基本となりました。
問10	答え 2 道元	鎌倉時代には、宋（中国）に渡って学んだ僧たちによって新しい仏教が伝えられました。道元は曹洞宗の開祖であり、ひたすら座禅に打ち込む「只管打坐（しかんたざ）」を重んじ、永平寺を拠点として活動しました。一方、同じ禅宗でも、幕府の保護を受けて武士の間に広まった臨済宗の開祖は栄西です。親鸞は浄土真宗、一遍は時宗の開祖であり、これらは禅宗とは異なる浄土教系の宗派です。
問11	答え 2 将軍から、先祖伝来の領地の支配を認められたり、新たな領地を与えられたりすること	将軍が御家人に対して行う「御恩」には、御家人が先祖から受け継いできた領地の支配を将軍が保証する「本領安堵（ほんりょうあんど）」と、戦功を立てた御家人に新たな領地を与える「新恩給与（しんおんきゅうよ）」がありました。このように、将軍が御家人の領地を保護することが、武士たちの忠誠心を引き出す鍵となっていました。
問12	答え 1 御成敗式目（貞永式目）	北条泰時は、武士社会でそれまで積み重ねられてきた「ならわし」や道徳を基に、裁判の基準を明確にするためにこの法律を制定しました。これは武士が自分の手で、武士のために作った最初の本格的な法律です。聖徳太子が定めた「十七条の憲法」や、江戸時代に大名を統制するために出された「武家諸法度」とは、制定された時代や目的が異なります。
問13	答え 3 新古今和歌集	鎌倉時代は武士が政治の実権を握り始めた時期ですが、伝統的な公家文化も依然として高い権威を持っていました。後鳥羽上皇は、承久の乱を起こして幕府に挑んだ政治家としても知られますが、文化面でもこの歌集の編纂を通じて朝廷の存在感を示そうとしました。
問14	答え 1 世代交代を繰り返すたびに一族の領地が細分化され、生活が困窮する武士が増えた。	鎌倉時代に一般的だった分割相続は、子孫が増えるたびに土地が細かく分けられる仕組みであったため、数世代経つと一人の御家人が得られる収入は極めてわずかなものになってしまいました。この状態を「領地の細分化」と呼びます。武士は自力で軍装備を整えなければならなかったため、この経済的な困窮は御家人制度の根幹を揺るがす深刻な問題となりました。のちにこの弊害を避けるため、一人の子がすべてを継ぐ単独相続へと変化していくことになります。

- 問1 鎌倉時代に成立した『平家物語』が、当時の人々、特に文字を十分に読むことができなかった庶民層にまで広く普及した背景には、どのような仕組みがありましたか。 (2021年 京都公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---------------------------------------|
| 1. 琵琶法師と呼ばれる僧侶たちが、琵琶の音色に合わせて物語を口承で伝えたため。 | 2. 鎌倉幕府が、武士の心得を教育するための教科書として全国の村々に配布したため。 | 3. 活版印刷の技術が導入され、安価な小型本が市場で大量に流通するようになったため。 | 4. 寺子屋が普及し、子供たちが読み書きの練習用教材として書き写したため。 |
|--|---|--|---------------------------------------|
- 問2 12世紀後半の平氏による政権期から鎌倉時代にかけて、日本国内では貨幣経済が急速に浸透し始めました。当時、日本国内で大量に流通していた銅銭の主な由来について述べたものとして、最も適切な記述を選びなさい。 (2023年 広島公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---------------------------------------|--|---|
| 1. 日本の商人が中国の宋と貿易を行ったことにより、国内に大量に持ち込まれた。 | 2. 日本国内の鉱山から採掘された銀を、室町幕府が鑄造して全国に配布した。 | 3. 江戸幕府が国内の経済を安定させるために、独自に鑄造した寛永通宝が広まった。 | 4. 鉄砲の伝来とともに、ヨーロッパの商人からキリスト教の布教とともに譲渡された。 |
|---|---------------------------------------|--|---|
- 問3 11世紀末から約200年にわたって行われた、キリスト教の聖地エルサレムをイスラム勢力から奪還することを目的とした軍隊の派遣について、この遠征のきっかけとなる呼びかけを行った人物として正しいものを選びなさい。 (2018年 沖縄公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|------------|-----------|----------|
| 1. ローマ教皇 | 2. 神聖ローマ皇帝 | 3. ビザンツ皇帝 | 4. フランス王 |
|----------|------------|-----------|----------|
- 問4 室町幕府の第3代将軍である足利義満が建立した鹿苑寺金閣（金閣）は、各層で異なる建築様式が組み合わされています。この建築において、上層部に禅宗様の様式が取り入れられた背景として、当時の社会状況を説明した文として最も適切なものはどれか。 (2022年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 座禅によって自力で悟りを目指す教義が武士に好まれ、禅宗が政治権力と深く結びついていたため。 | 2. 兵農分離を進める幕府が、有力な農民を統制するための精神的な支柱として禅宗を利用したため。 | 3. 大規模な検地を実施するにあたり、寺院に土地の測量を依頼するなど実務的な協力関係があったため。 | 4. 念仏を唱えれば誰でも救われるという教えが急速に広まり、将軍もその流行を取り入れたため |
|--|---|---|---|
- 問5 1221年に起こった承久の乱ののち、鎌倉幕府が朝廷の監視や西日本の武士を統制するために京都に設置した、地方機関の名前とその役割として適切なものはどれですか。 (2024年 徳島公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------|------------------------------|----------------------------|--------------------------------|
| 1. 六波羅探題：朝廷を監視し、西国の裁判や警備を行う | 2. 京都守護：将軍の京都滞在を支援し、天皇の護衛を行う | 3. 政所：京都の財政を管理し、貴族の生活を統制する | 4. 問注所：京都で発生した武士と貴族の間の裁判を専門に扱う |
|-----------------------------|------------------------------|----------------------------|--------------------------------|
- 問6 鎌倉時代において、将軍と御家人の間には土地を仲立ちとした双方向の主従関係が築かれていました。この関係において、将軍が御家人に対して行う「御恩」の具体的な内容として、最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2017年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 御家人が以前から持っていた領地の支配を認めたり、手柄を立てた者に新しい領地を与えたりすること | 2. 京都や鎌倉の警護に従事したり、合戦が起きた際に軍勢に加わって戦ったりすること | 3. 一族の中で最も力のある者を地頭に任命し、全国の荘園から兵糧米を徴収する権利を与えること | 4. 朝廷との交渉を有利に進めるため、有力な御家人に高い官位を授けるよう天皇に働きかけること |
|---|---|--|--|
- 問7 平安時代末期から鎌倉時代にかけての日本の経済状況において、土地売買や年貢の支払いにおいて貨幣が利用される割合が増した背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 愛媛公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|---|--|---|
| 1. 中国の宋から大量の銅銭が輸入され、国内の通貨として広く流通したため | 2. 日本国内で大規模な銅山が次々と発見され、政府が独自の貨幣を大量に鑄造したため | 3. 幕府が物々交換を法律で禁止し、すべての取引を紙幣で行うよう強制したため | 4. 西欧諸国との貿易が始まり、銀を中心とした国際的な決済システムが導入されたため |
|--------------------------------------|---|--|---|
- 問8 東大寺南大門の金剛力士像に見られる、写実的で躍動感あふれる彫刻様式が鎌倉時代に大きく発展した歴史的背景として、最も適切な説明を選んでください。 (2026年 富山公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------------|--------------------------------------|--|---|
| 1. 新興の武士の気風に合った、素朴で力強い精神性が好まれたため | 2. 貴族の間で流行した、優美で洗練された国風文化の影響を強く受けたため | 3. 宋との貿易を通じて、禅宗とともに極彩色の華麗な装飾技術が導入されたため | 4. 鉄砲の伝来に伴い、外敵を威圧するために巨大な偶像が各地で必要とされたため |
|----------------------------------|--------------------------------------|--|---|
- 問9 日本の歴史の変遷をまとめた略年表において、鎌倉時代と室町時代を一つの大きな枠で囲み、時代区分を示す名称を記入する場合、最も適切なものはどれか。 (2021年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------------|
| 1. 大和政権による統治が行われた「古代」 | 2. 武士が実権を握り社会構造が変化した「中世」 | 3. 全国統一が果たされ幕藩体制が整った「近世」 | 4. 開国を経て近代化が進められた「近代」 |
|-----------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------------|
- 問10 鎌倉幕府が発令した「永仁の徳政令」が、その後の社会に与えた影響について述べたものとして正しいものはどれですか。 (2025年 茨城公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 貸し借りの契約が無効になると恐れられた金貸したちが、武士への融資を拒むようになり、かえって武士の生活が混乱した。 | 2. 農民の不満が解消されて大規模な一揆が収まり、幕府による地方支配がこれまで以上に安定した。 | 3. 全国の港で貿易が活発になり、宋銭に代わって幕府が新しく発行した独自の貨幣が広く流通するようになった。 | 4. 御家人の地位が飛躍的に向上し、北条氏による執権政治が終わりを迎え、将軍が直接政治を行う体制が復活した。 |
|---|---|---|--|
- 問11 鎌倉時代、源平の争乱で焼失した東大寺南大門が再建される際、その建築には当時の中国から伝わった新しい様式が取り入れられた。この建築様式が伝わった中国の王朝として正しいものはどれか。 (2025年 青森県公立入試 類似)
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 隋 | 2. 唐 | 3. 宋 | 4. 元 |
|------|------|------|------|
- 問12 13世紀後半、元（モンゴル帝国）の侵攻という国難に直面した際、北条時宗が就いていた役職は何ですか。当時の資料では、将軍の補佐役でありながら、御家人を指揮して防衛にあたった幕府の最高責任者として記されています。 (2020年 愛媛公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|----------|----------|
| 1. 将軍 | 2. 執権 | 3. 六波羅探題 | 4. 公文所別当 |
|-------|-------|----------|----------|
- 問13 鎌倉時代後期、元寇の負担や分割相続などにより生活が苦しくなった御家人を救済するため、幕府が借金を帳消しにし、手放した土地を無償で取り戻させるために出した法令は何か。 (2022年 青森県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------|----------|----------|-----------|
| 1. 徳政令（永仁の徳政令） | 2. 御成敗式目 | 3. 武家諸法度 | 4. 公事方御定書 |
|----------------|----------|----------|-----------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 琵琶法師と呼ばれる僧侶たちが、琵琶の音色に合わせて物語を口承で伝えたため。	平家物語は、もともと読まれるための本としてだけでなく、聴くための「語り物」としての性格を強く持っていました。琵琶法師が日本各地を巡り、劇的な音楽とともに語り聞かせたことで、当時の識字率に関わらず多くの人々がその内容を知ることができました。このような口承文化は、武士の価値観や仏教的な思想が社会全体へ広まる大きな要因となりました。
問2	答え 1 日本の商人が中国の宋と貿易を行ったことにより、国内に大量に持ち込まれた。	平安時代末期に平清盛が日宋貿易を推進したことなどをきっかけに、中国の宋で鑄造された銅銭（宋銭）が日本に大量に流入しました。当時の日本国内では貨幣の鑄造が衰退していたため、これらの輸入された宋銭が、年貢の代銭納や市場での取引といった国内の経済活動を支える主要な通貨として広く流通することとなりました。
問3	答え 1 ローマ教皇	聖地エルサレムがイスラム教勢力のセルジューク朝に占領されたことを受け、1095年のクレルモン公会議においてローマ教皇がキリスト教諸国の騎士や貴族に遠征を呼びかけました。この軍隊は「十字軍」と呼ばれ、西ヨーロッパの社会構造やその後の歴史に多大な影響を与えることとなりました。
問4	答え 1 座禅によって自力で悟りを目指す教義が武士に好まれ、禅宗が政治権力と深く結びついていたため。	足利義満の時代の文化は、公家文化と武家文化が融合した北山文化と呼ばれます。金閣はその象徴であり、貴族風の寝殿造と武士に好まれた禅宗様（仏殿造）が一体となっています。義満が禅宗の様式を重要視したのは、単なる個人の信仰だけでなく、幕府が禅宗寺院を管理・保護することで、政治的な権威と高い教養を背景とした文化的な統治力を示す目的もありました。
問5	答え 1 六波羅探題：朝廷を監視し、西国の裁判や警備を行う	承久の乱によって朝廷に対して優位に立った鎌倉幕府は、再び朝廷が反乱を起こさないよう監視を強める必要がありました。そこで、それまでの京都守護を廃止して新たに六波羅探題を設置し、朝廷の監視に加えて、西日本の御家人の統制や裁判、警備を担わせることで、全国的な支配を確実なものにしました。
問6	答え 1 御家人が以前から持っていた領地の支配を認めたり、手柄を立てた者に新しい領地を与えたりすること	鎌倉幕府の主従関係は、将軍からの「御恩」と、御家人からの「奉公」という互恵的な関係で成り立っていました。将軍が行う御恩には、御家人が先祖伝来の土地を所有することを認める「本領安堵（ほんりょうあんど）」と、軍功を挙げた者に新しい土地を与える「新恩給与（しんおんきゅうよ）」の2つの側面があります。これに対し、御家人が軍役や番役（警護）を果たすことは「奉公」と呼ばれます。
問7	答え 1 中国の宋から大量の銅銭が輸入され、国内の通貨として広く流通したため	当時の日本では、政府による貨幣の鑄造が途絶えていましたが、日宋貿易を通じて宋から大量の銅銭が流入したことで、再び貨幣が社会に浸透しました。この潤沢な貨幣供給により、土地の売買といった重要な経済活動においても、重くてかさばる米や布に代わって、持ち運びや計算が容易な銅銭が主要な決済手段として選ばれるようになりました。
問8	答え 1 新興の武士の気風に合った、素朴で力強い精神性が好まれたため	鎌倉文化は、政治の実権を握った武士の生活態度や精神を反映しています。貴族的な優雅さよりも、現実的で力強いものが好まれたため、金剛力士像のような写実的でたくましい彫刻が制作されました。これは、当時の武士の気風が反映された結果と考えられています。
問9	答え 2 武士が実権を握り社会構造が変化した「中世」	鎌倉時代と室町時代は、いずれも武士が幕府を開いて政治を行った時期であり、歴史学上では「中世」として一括りにされる。古代の公家社会から、近世の強力な中央集権的封建制へと移行する過程の時代であり、守護や地頭が地方で実力をつけるなど、独自の社会秩序が形成された。
問10	答え 1 貸し借りの契約が無効になると恐れた金貸したちが、武士への融資を拒むようになり、かえって武士の生活が混乱した。	徳政令によって借金が帳消しにされたことは、金を貸していた「借上（かしあげ）」などの業者にとっては大きな損失となりました。その結果、業者は再び徳政令が出されることを警戒して御家人への融資を拒むようになり、現金が必要な御家人は資金を借りられなくなってさらに窮乏しました。このように、法令は一時的な救済にはなりましたが、経済の仕組みを混乱させ、幕府に対する武士たちの信頼を失わせる原因の一つとなりました。
問11	答え 3 宋	鎌倉時代初期、重源を中心に行われた東大寺の再建事業では、当時日宋貿易などを通じて交流があった中国の宋（南宋）から伝わった、大仏様（天竺様）と呼ばれる雄大で力強い建築様式が採用された。選択肢にある元は、鎌倉時代中期以降に日本へ襲来（元寇）した王朝であり、東大寺再建の時期とは異なる。
問12	答え 2 執権	北条時宗は鎌倉幕府の第8代執権として、元寇の指揮を執りました。鎌倉時代後半には、将軍は名目上の存在となり、北条氏が就く執権が政治の実権を完全に掌握していました。六波羅探題は京都の監視や西国の統括を行う出先機関の役職であり、幕府全体の最高役職ではありません。
問13	答え 1 徳政令（永仁の徳政令）	鎌倉時代後期、御家人は元寇の防衛費用や分割相続による所領の細分化で困窮していました。幕府はこれに対し、質入れや売却した土地を無償で取り戻させる徳政令（永仁の徳政令）を発布して救済を図りました。なお、御成敗式目は北条泰時が制定した裁判の基準、武家諸法度は江戸幕府が大名を統制するための法令です。

- 問1 鎌倉時代初期の武士社会において、親の領地を複数の子に分けて継承させる相続方法を何といいますか。 (2020年 茨城県公立入試 類似)
1. 分割相続 2. 単独相続 3. 永代売買 4. 地頭請
- 問2 鎌倉時代に普及し、日本の食生活や農業構造に大きな影響を与えた「二毛作」の定義として、正しい説明はどれですか。 (2017年 鳥取公立入試 類似)
1. 同じ耕地において、一年の間に米と麦など二種類の異なる作物を栽培すること。 2. 同じ耕地において、一年の間に米を二回栽培すること。 3. 広大な土地を複数の区画に分け、数年ごとに栽培する作物を変えること。 4. 一つの耕地で、複数の農家が共同して同じ作物を育てること。
- 問3 次の1～3は、日本の文化史における重要なできごとについて説明したものです。これらを年代の古い順に並べ替えたものとして正しいものを選びなさい。1. 狩野永徳によって、城郭を飾る豪華な障壁画が描かれた。2. 吉田兼好（兼好法師）によって、随筆である『徒然草』が執筆された。3. 松尾芭蕉によって、東北・北陸を巡った旅の記録である『おくのほそ道』が記された。 (2019年 香川公立入試 類似)
1. 2 → 1 → 3 2. 1 → 2 → 3 3. 2 → 3 → 1 4. 3 → 2 → 1
- 問4 鎌倉時代後半、元寇の防衛に功績のあった御家人が生活に困窮し、幕府への不満を強めた経緯を説明した記述として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 大分県公立入試 類似)
1. 自費で軍役を果たしたが、恩賞としての領地が与えられなかったため、幕府との主従関係が揺らいだ。 2. 幕府が全国の武士に土地を寄進するよう命じたため、自立した経営ができなくなった。 3. 御成敗式目によって土地の相続が厳しく制限され、家を維持することが困難になった。 4. 元の軍隊が九州の大部分を占領し、御家人の所領が直接的に奪われた。
- 問5 源頼朝の死後、鎌倉幕府において北条氏が世襲し、将軍を補佐して幕府の政務を統括した役職の名称として正しいものを選択してください。 (2023年 島根公立入試 類似)
1. 執権 2. 管領 3. 摂政 4. 内大臣
- 問6 鎌倉時代初期の武士の社会において、一族の長である「惣領（そうりょう）」を中心に団結を強める中で、領地などの財産の継承はどのように行われていましたか。当時の社会状況として最も適切な説明を選びなさい。 (2025年 埼玉県公立入試 類似)
1. 一族の男子だけでなく女子にも領地を分け与える分割相続が行われていた。 2. 一族の長男のみがすべての領地を継承し、他の兄弟や女子には財産を渡さない単独相続が行われていた。 3. 土地はすべて天皇のものであるという公地公民の原則に基づき、一定期間ごとに国へ返還されていた。 4. 恩賞として与えられた土地を、功績のあった家臣にのみ一代限りで貸し出す制度がとられていた。
- 問7 鎌倉時代において、源頼朝の死後に幕府の実権を握った北条氏が代々世襲した、将軍に代わって政治を司る役職を何というか、次の中から選びなさい。 (2018年 茨城県公立入試 類似)
1. 執権 2. 管領 3. 老中 4. 関白
- 問8 鎌倉時代に制定された「御成敗式目（貞永式目）」について、その制定の背景や内容として正しい説明はどれですか。 (2026年 富山公立入試 類似)
1. 執権の北条泰時が、御家人たちの間で増えていた領地争いの裁判を、武士の慣習に基づいて公平に裁くために定めた。 2. 江戸幕府の将軍が、全国の大名を統制するために、城の修理の制限や参勤交代の義務などを定めた。 3. 聖徳太子が、官吏としての心得を説くとともに、仏教を敬い天皇の命令に従うことを求めて定めた。 4. 徳川吉宗が、裁判の基準を統一して能率的に処理するために、過去の判例などをまとめた法律として定めた。
- 問9 鎌倉時代の将軍と御家人の間には、土地を媒介とした強力な主従関係が存在していました。将軍が御家人の所領を保証したり、新たな所領を与えたりする行為を「御恩」と呼ぶのに対し、御家人が将軍への忠誠を示すために、戦時に軍役を担ったり、京都や鎌倉での警備任務（番役）を遂行したりする義務を何と呼びますか。 (2014年 愛媛公立入試 類似)
1. 奉公 2. 寄進 3. 下地中分 4. 守護の設置
- 問10 13世紀初頭にモンゴルの諸部隊を統一し、優れた機動力を持つ軍団を率いて中央アジアなどを征服し、広大なモンゴル帝国を築き上げた人物は誰ですか。 (2015年 山口公立入試 類似)
1. チンギス・ハン 2. 秦の始皇帝 3. コロンブス 4. ナポレオン
- 問11 1221年に後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして兵を挙げた「承久の乱」ののち、幕府が朝廷の動きを常に監視し、あわせて西国の武士を統制するために京都に設置した機関として正しいものを、次から選びなさい。 (2021年 宮城県公立入試 類似)
1. 六波羅探題 2. 管領 3. 大宰府 4. 京都所司代
- 問12 鎌倉時代の文化は、新興の武士階級の好みを反映し、素朴で力強いという特色を持っています。この時代の代表的な建築物である東大寺南大門について、その建立の背景や特徴を説明した文として最も適切なものを選択肢から選びなさい。 (2021年 佐賀公立入試 類似)
1. 重源という僧が中国から導入した大仏様という様式を用い、内部には運慶や快慶による力強い彫刻が置かれた。 2. 足利義満が京都の北山に建立したもので、各層で建築様式が異なる金箔を貼った豪華な建物である。 3. 聖武天皇の時代に建てられ、高床式の校倉造によって天皇ゆかりの品々や宝物が保管された。 4. 姫路藩の拠点として築かれ、白鷺城とも呼ばれる美しさの高い防御機能を兼ね備えた城郭建築である。
- 問13 13世紀に起きた「元寇」に関連して、長崎県松浦市の鷹島神崎遺跡から軍船の船体やいかり、武器などが発見されたことは、当時の歴史的状況についてどのような事実を裏付けていますか。最も適切な説明を選びなさい。 (2017年 長崎県公立入試 類似)
1. 二度の侵攻において、元軍の艦隊が暴風雨（台風）に見舞われ、多くの軍船が海中に沈没したという記録を実証している。 2. 元が日本を占領した後に、松浦市に大規模な軍事拠点や港湾施設を建設して長期間駐留していたことを示している。 3. 日本側の武士が、元の優れた造船技術や武器を模倣するために、捕らえた軍船を解体して調査していたことを示している。 4. 元が日本との平和的な交易を目的として、船内に積んでいた武器を儀礼として海に投げ捨てたという習慣を裏付けている。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 分割相続	鎌倉時代初期の武士（御家人）の間では、親の領地を複数の子に分けて譲り渡す方法が一般的でした。この制度では、男子だけでなく女子にも領地を分け与える権利が認められていました。しかし、世代を重ねるごとに一人あたりの領地が細分化されて減少していくため、のちに御家人の生活が困窮する一因となりました。
問2	答え 1 同じ耕地において、一年の間に米と麦など二種類の異なる作物を栽培すること。	二毛作は、一つの土地で一年のサイクルの中に異なる種類の作物を組み合わせで栽培する手法を指します。日本では鎌倉時代に西日本から始まり、次第に南北朝・室町時代にかけて全国へと普及していきました。主に夏に水田として米を作り、水を引き抜いた後の冬の田（裏作）で麦を作る形態が一般的でした。なお、一年のうちに同じ作物を二回作ことは「二期作」と呼ばれ、二毛作とは区別されます。
問3	答え 1 2 → 1 → 3	『徒然草』は鎌倉時代末期（14世紀前半）に書かれました。狩野永徳の障壁画は織田信長や豊臣秀吉の時代、すなわち安土桃山時代の桃山文化を代表する作品です。松尾芭蕉の『おくのほそ道』は江戸時代元禄期の元禄文化を代表する紀行文です。したがって、鎌倉時代から南北朝時代、安土桃山時代、江戸時代という歴史の流れに沿った順序となります。
問4	答え 1 自費で軍役を果たしたが、恩賞としての領地が与えられなかったため、幕府との主従関係が揺らいだ。	鎌倉幕府の基盤は、将軍が御家人の所領を保証する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」という主従関係にありました。しかし、元寇においては御家人が重い負担を負って奉公したにもかかわらず、幕府が十分な「御恩（恩賞）」を与えることができなかったため、この互恵的な関係が崩壊しました。これが御家人の幕府離れを招き、幕府滅亡への遠因となりました。
問5	答え 1 執権	北条氏は、源頼朝の妻である政子の実家であり、頼朝の死後に「執権」という役職に就いて幕府の実権を握りました。これを執権政治と呼びます。管領はのちの室町幕府において将軍を補佐した役職であり、摂政は天皇が幼少の間に政務を代行する朝廷の役職です。
問6	答え 1 一族の男子だけでなく女子にも領地を分け与える分割相続が行われていた。	鎌倉時代初期の武士社会では、惣領が親族を統率して軍役や奉公を果たしていました。この時期、所領の継承は子や女子にも分け与える「分割相続」が一般的であり、女性が地頭（じとう）として土地を管理し、幕府から権利を認められるケースも存在しました。しかし、元寇などの影響で生活が苦しくなると、領地の細分化を防ぐために、後の時代には長男がすべてを継承する単独相続へと変化していきました。
問7	答え 1 執権	鎌倉幕府を開いた源頼朝の死後、有力な御家人であった北条氏が政治の主導権を握りました。北条氏は将軍を補佐しつつ、実際には幕府の最高責任者として振る舞う「執権」という立場を世襲し、北条泰時の時代に制定された御成敗式目などを通じて独自の政治体制を確立しました。
問8	答え 1 執権の北条泰時が、御家人たちの中で増えていた領地争いの裁判を、武士の慣習に基づいて公平に裁くために定めた。	鎌倉時代初期の武士の間では、土地の境界や所有権をめぐる紛争が絶えませんでした。北条泰時は、それまでの貴族の法律（律令）ではなく、武士の実情に合わせた裁判基準を成文化することで、幕府の裁判に対する信頼を高めようとしてしました。この法律は、後の室町幕府や戦国大名の分国法にも大きな影響を与えました。
問9	答え 1 奉公	鎌倉幕府の根幹となった「御恩と奉公」の関係において、御家人が将軍に対して果たすべき義務が「奉公」です。具体的には、戦乱の際に自備の武器や軍勢を率いて駆けつける軍役や、平時の警備などが含まれます。これは、将軍が御家人の先祖伝来の土地を保証するなどの「御恩」を与えることに対する、双務的な代償としての性格を持っていました。
問10	答え 1 チンギス・ハン	13世紀の初めにモンゴル高原の諸部族をまとめ上げたチンギス・ハンは、強力な騎馬軍団を編成して中央アジアを征服しました。彼の建国したモンゴル帝国は、のちにユーラシア大陸の大部分を支配する大帝へと成長し、東西の文化交流を促進しました。
問11	答え 1 六波羅探題	承久の乱で朝廷側に勝利した鎌倉幕府は、乱の再発を防ぐために京都に強力な出先機関を置く必要がありました。それまでの京都守護を改組・強化する形で設置されたのが六波羅探題であり、北条氏の有力者がその職に就いて、朝廷の監視、裁判、西日本の統治という重要な役割を担いました。
問12	答え 1 重源という僧が中国から導入した大仏様という様式を用い、内部には運慶や快慶による力強い彫刻が置かれた。	鎌倉時代は武士が政治の実権を握った時代であり、文化面でも大陸（宋）との交流や武士の好みを背景に、力強さを追求する傾向が見られました。東大寺南大門は、巨大な部材を露出させた合理的な構造である「大仏様」を採用しており、これは重源が宋の技術を学んで導入したものです。門内の金剛力士像も、当時の「慶派」と呼ばれる彫刻家集団による、筋肉の躍動感などを表現した写実的な作品です。
問13	答え 1 二度の侵攻において、元軍の艦隊が暴風雨（台風）に見舞われ、多くの軍船が海中に沈没したという記録を実証している。	鷹島神崎遺跡から発見された軍船の残骸や武器は、二度の元寇のうち、特に弘安の役において元軍の艦隊が暴風雨に遭遇し、壊滅的な被害を受けたことを物理的に証明する貴重な資料です。当時の文献に残る「神風」による元軍の撤退という歴史的事実を、水中考古学の視点から裏付けるものとなっています。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 御恩	鎌倉時代の主従関係は、将軍からの恩恵である「御恩」と、それに応える御家人の義務である「奉公」によって成り立っていました。御恩には、先祖伝来の所領を認める「本領安堵（ほんりょうあんど）」と、軍功に対して新しい領地を与える「新恩給与（しんおんきゅうよ）」の2種類があります。地頭や守護は役職の名前であり、その地位に任命されることも御恩の一環でしたが、制度全体の名称ではありません。
問2	答え 1 平清盛	平氏は、保元の乱や平治の乱を経て政治の実権を握りました。一門で高位高官を独占し、大輪田泊を整備して宋（中国）との貿易を盛んに行うことで経済力を蓄え、武士による政治の先駆けとなりました。藤原道長はそれ以前の摂関政治の全盛期を築いた人物です。
問3	答え 1 西日本に地頭を置くことで、幕府は朝廷の勢力圏だった地域にも支配を及ぼすようになった。	承久の乱以前、幕府の支配力は東国が中心であり、西日本は依然として朝廷や公家の影響力が強い地域でした。しかし、乱の勝利によって大和や河内、さらに九州の肥前に至るまで広範囲に幕府側の地頭が置かれたことで、全国的な武家政治の基礎が固まりました。あわせて京都には、朝廷の監視と西日本の統括を行う六波羅探題が設置されました。
問4	答え 1 御恩	鎌倉幕府の基盤は、将軍と御家人の間の「御恩」と「奉公」という主従関係にありました。将軍側が行う、御家人の領地を保護・付与する行為が「御恩」と呼ばれます。具体的には、元々持っていた土地を保証する「本領安堵」や、戦功に対して新しい土地を与える「新恩給与」がありました。これに対し、御家人が軍役や番役を果たすことが「奉公」です。
問5	答え 1 東大寺南大門	鎌倉時代、源平合戦の際に焼失した東大寺の復興が進められました。その代表的な建築が東大寺南大門です。これに対し、金閣は室町時代の北山文化、銀閣は同じく室町時代の東山文化、平等院鳳凰堂は平安時代の国風文化を代表する建築物です。
問6	答え 1 源義経の追討を口実として、全国的な軍事・警察権や土地管理権を幕府が握るため	源頼朝は、対立した弟の源義経を捕縛するという「軍事的な必要性」を名目にして、守護・地頭の設置を朝廷に認めさせました。これにより、幕府は地方の軍事・警察権（守護）や、土地の管理・年貢の徴収（地頭）を通じて、全国の武士や土地に対する支配力を急速に強めることに成功しました。これは、単なる個人の追討を超えた、武家政権の基礎を固める重要な政治的制度でした。
問7	答え 1 曹洞宗	道元は宋（中国）に渡って禅を学び、帰国後に曹洞宗を広めました。道元は、悟りを得るための手段として何かを祈るのではなく、ただひたすら座禅を組むことを重視しました。これに対し、同じ禅宗でも栄西が伝えた臨済宗は、師からの問いに答えながら悟りを目指す手法を取り、幕府との結びつきを強めました。
問8	答え 1 他国からの侵略を防ぐ防衛戦であったため、恩賞として御家人に分け与えるための新たな領地が得られなかったから	鎌倉幕府の支配体制は「御恩と奉公」という双方向の契約で成り立っていました。通常、国内の乱などでは敗者から没収した土地を恩賞（領地）として配分できましたが、元寇は外国を追い返す防衛戦であったため、戦勝しても奪える土地がありませんでした。多額の戦費を自ら負担して戦った御家人に対し、幕府が十分な報酬を与えられなかったことが、幕府の権威を失墜させる決定的な要因となりました。
問9	答え 1 坂上田村麻呂の派遣 → 平将門の反乱 → 源頼朝による奥州藤原氏の滅亡	8世紀末から9世紀初めの平安時代初期、桓武天皇の命を受けた坂上田村麻呂が征夷大將軍として東北地方へ派遣され、蝦夷（えみし）の抵抗を抑えました。その後、10世紀中ごろの平安時代中期には、地方政治の乱れを背景に関東で平将門が反乱を起こし、武士の力が中央に知れ渡るきっかけとなりました。そして12世紀末、源頼朝が壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼした後、奥州藤原氏を討伐して鎌倉幕府による支配を全国へと広げました。
問10	答え 1 執権の北条泰時が、御家人たち間で増えていた領地争いの裁判を、武士の慣習に基づいて公平に裁くために定めた。	鎌倉時代初期の武士の間では、土地の境界や所有権をめぐる紛争が絶えませんでした。北条泰時は、それまでの貴族の法律（律令）ではなく、武士の実情に合わせた裁判基準を成文化することで、幕府の裁判に対する信頼を高めようとしてしました。この法律は、後の室町幕府や戦国大名の分国法にも大きな影響を与えました。
問11	答え 1 新興の武士の気風を反映した、写実的で力強い表現となっている。	鎌倉時代の文化は、それまでの貴族中心の文化とは異なり、新たに政治の実権を握った武士の精神が色濃く反映されています。彫刻の分野では、運慶らが金剛力士像で見たような、解剖学的な正確さや激しい動き、生命力あふれる写実的な表現が主流となりました。これに対し、繊細で優美な表現は平安時代の国風文化などの特徴であり、簡素で枯淡な美しさは室町時代の東山文化などに見られる特徴です。
問12	答え 1 六波羅探題	承久の乱で後鳥羽上皇の軍に勝利した幕府は、朝廷を厳しく監視すると同時に、それまで影響が弱かった西日本の武士を統制する必要に迫られました。そのため、京都の六波羅にあった平氏の旧跡に北条氏の一族などの有力な御家人を常駐させ、西日本の軍事・行政・司法を担わせました。
問13	答え 3 荘園や公領に置かれ、年貢の徴収や土地の管理を行い、武士による土地支配を強めた。	地頭は、源頼朝が義経追討などを名目として朝廷に認めさせた役職です。それまで荘園領主（貴族や寺社）が持っていた土地支配の権限に幕府が介入することを可能にしました。地頭が年貢を徴収し、土地を管理する実権を握ることで、武士が社会の主導権を握る基盤が作られていきました。

問1 13世紀に日本で起こった出来事を、年代の古い順に正しく並べたものはどれですか。 (2018年 大阪公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 承久の乱が発生した ———
御成敗式目が制定された ———
文永の役（元寇）が始まった | 2. 御成敗式目が制定された ———
承久の乱が発生した ———
文永の役（元寇）が始まった | 3. 承久の乱が発生した ———
文永の役（元寇）が始まった ———
御成敗式目が制定された | 4. 文永の役（元寇）が始まった ———
承久の乱が発生した ———
御成敗式目が制定された |
|--|--|--|--|

問2 鎌倉幕府が京都に六波羅探題を設置した目的として、最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 和歌山公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|------------------------------------|
| 1. 後鳥羽上皇を中心とする朝廷の動きを常に監視し、西日本の武士に対する統制を強化するため | 2. 蒙古襲来に備えて、九州沿岸の警備と西国の御家人を指揮する拠点を確保するため | 3. 全国の荘園や公領に配置された地頭の活動を監督し、年貢の徴収を円滑にするため | 4. 室町幕府に対抗して、京都の治安維持と足利氏の動向を把握するため |
|---|--|--|------------------------------------|

問3 鎌倉時代において、将軍と御家人の間には土地を仲立ちとした双方向の主従関係が築かれていました。この関係において、将軍が御家人に対して行う「御恩」の具体的な内容として、最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2017年 岩手県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 御家人が以前から持っていた領地の支配を認めたり、手柄を立てた者に新しい領地を与えたりすること | 2. 京都や鎌倉の警護に従事したり、合戦が起きた際に軍勢に加わって戦ったりすること | 3. 一族の中で最も力のある者を地頭に任命し、全国の荘園から兵糧米を徴収する権利を与えること | 4. 朝廷との交渉を有利に進めるため、有力な御家人に高い官位を授けるよう天皇に働きかけること |
|---|---|--|--|

問4 鎌倉時代末期から南北朝時代にかけて成立した、兼好法師（吉田兼好）が日々の思いや世相を綴った文学作品のジャンルと、その名称の組み合わせとして最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2019年 香川公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------|--------------|-----------|---------------|
| 1. 随筆：徒然草 | 2. 軍記物語：平家物語 | 3. 随筆：枕草子 | 4. 紀行文：おくのほそ道 |
|-----------|--------------|-----------|---------------|

問5 鎌倉時代に栄西（えいさい）などの僧によって中国（宋）から伝えられた、座禅を組んで自ら悟りを開こうとする教えを何というか。 (2021年 長野県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|--------|---------|--------|
| 1. 禅宗 | 2. 浄土宗 | 3. 浄土真宗 | 4. 日蓮宗 |
|-------|--------|---------|--------|

問6 鎌倉幕府が徳政令を出す直接的な原因となった、当時の社会情勢として最も適切な説明はどれですか。 (2023年 富山公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 元寇の防衛戦によって御家人が多大な軍費を負担したが、幕府には分け与えるための新たな土地が不足していた。 | 2. 貨幣経済が浸透したことで御家人の生活が急激に豊かになり、幕府が贅沢を禁止しようとした。 | 3. 承久の乱に勝利したことで、幕府が西日本の武士たちに新しく獲得した土地を分配しすぎた。 | 4. 分割相続の繰り返しによって御家人の領地が細分化され、元寇の以前からすでに経済的に自立していた。 |
|--|--|---|--|

問7 マルコ・ポーロが日本を「黄金の国」と呼んだ13世紀の鎌倉時代において、既に建立から200年以上が経過していた平安時代の仏教建築があります。藤原頼通が宇治に建立し、当時の貴族が願った極楽浄土の様子を表現したとされる建築物を選びなさい。 (2022年 栃木県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|----------|
| 1. 平等院鳳凰堂 | 2. 唐招提寺金堂 | 3. 東大寺大仏殿 | 4. 薬師寺東塔 |
|-----------|-----------|-----------|----------|

問8 1297年に出された法令の要約資料によると、御家人の生活困窮を理由に「領地の質入れや売買を禁止する」という内容や、「すでに売却された土地についても買い戻しを認める」という内容が記されています。このような命令が社会に与えた影響として、最も適切なものはどれですか。 (2025年 鹿児島公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 借金が帳消しになることを恐れた金貸し（借上）が、御家人への融資を拒むようになり、かえって御家人の生活が苦しくなった。 | 2. 土地の売買が活発になったことで、新興の商人が成長し、幕府の財政が大きく潤うことになった。 | 3. 武士独自の裁判基準が明確になったことで、御家人同士の土地争いが劇的に減少した。 | 4. 朝廷と幕府の関係が改善し、全国の武士が再び幕府の下に強く結束するようになった。 |
|---|---|--|--|

問9 1232年、鎌倉幕府の3代執権である北条泰時が、武士社会の慣習を整理し、公平な裁判を行うための基準として定めた最初の武士独自の法を何といいますか。 (2023年 鹿児島県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------|
| 1. 御成敗式目（貞永式目） | 2. 十七条の憲法 | 3. 武家諸法度 | 4. 公事方御定書 |
|----------------|-----------|----------|-----------|

問10 13世紀後半、元（モンゴル帝国）が二度にわたって日本に侵攻した際、朝鮮半島で元に服属し、軍船の建造や兵力の提供を命じられた国を選びなさい。 (2026年 岐阜公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|-------|-------|---------|
| 1. 高麗 | 2. 新羅 | 3. 百濟 | 4. 李氏朝鮮 |
|-------|-------|-------|---------|

問11 日本の歴史における僧侶の活動について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 和歌山公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 奈良時代に行基が民衆への布教や社会事業を行い、鑑真が来日して戒律を伝えたのち、鎌倉時代に道元が座禅を重視する禅を広めた。 | 2. 平安時代に行基が大仏造立に協力し、鎌倉時代に鑑真が正しい戒律を伝え、その後に道元が曹洞宗を開いた。 | 3. 奈良時代に道元が中国から帰国して禅を伝え、平安時代に行基が布教を行い、鎌倉時代に鑑真が唐招提寺を建立した。 | 4. 鎌倉時代に鑑真と行基が協力して新しい仏教を広め、室町時代に入ってから道元が座禅による修行を説いた。 |
|---|--|--|--|

問12 1221年に後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして兵を挙げた「承久の乱」ののち、幕府が再発防止のために京都に設置した機関の役割として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------------------------|---------------------------|-------------------------------|----------------------------|
| 1. 朝廷の動きを監視し、京都の警護や西国の御家人を統制する | 2. 将軍の補佐役として、幕府の政務全般を統括する | 3. 朝廷の儀式を管理し、京都の町奉行として治安を維持する | 4. 地方の守護を統制し、各地の年貢の徴収を監督する |
|--------------------------------|---------------------------|-------------------------------|----------------------------|

問13 鎌倉時代に宋から伝えられた、座禅を組む修行によって自らの力で悟りを開こうとする仏教の宗派を何というか、次の中から名称を選びなさい。 (2023年 徳島公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|--------|--------|---------|
| 1. 禅宗 | 2. 浄土宗 | 3. 日蓮宗 | 4. 浄土真宗 |
|-------|--------|--------|---------|

問14 1232年（貞永元年）、鎌倉幕府の3代執権である北条泰時が、御家人たちの領地をめぐる争いを公平に裁くために制定した、日本で最初の武家独自の法律の名称を答えなさい。 (2015年 佐賀公立入試 類似)

- | | | | |
|----------|---------|----------|-----------|
| 1. 御成敗式目 | 2. 建武式目 | 3. 武家諸法度 | 4. 十七条の憲法 |
|----------|---------|----------|-----------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 承久の乱が発生した ―― 御成敗式目が制定された ―― 文永の役（元寇）が始まった	13世紀の鎌倉時代の流れは、まず1221年に後鳥羽上皇による承久の乱が起こり、その約10年後の1232年に北条泰時が御成敗式目を制定しました。その後、13世紀後半の1274年（文永の役）と1281年（弘安の役）に、フビライ・ハン率いる元軍が襲来しました。この時系列を把握することが重要です。
問2	答え 1 後鳥羽上皇を中心とする朝廷の動きを常に監視し、西日本の武士に対する統制を強化するため	承久の乱は、朝廷が幕府を倒そうとして失敗した事件です。二度とこのような事態が起きないよう、幕府は朝廷がある京都に拠点を置き、天皇や上皇の行動を厳しくチェックしました。また、乱の結果として没収した領地が西日本に多く存在したため、それらを管理し、現地の武士たちを支配下に置く役割も果たしました。
問3	答え 1 御家人が以前から持っていた領地の支配を認めたり、手柄を立てた者に新しい領地を与えたりすること	鎌倉幕府の主従関係は、将軍からの「御恩」と、御家人からの「奉公」という互恵的な関係で成り立っていました。将軍が行う御恩には、御家人が先祖伝来の土地を所有することを認める「本領安堵（ほんりょうあんど）」と、軍功を挙げた者に新しい土地を与える「新恩給与（しんおんきゅうよ）」の2つの側面があります。これに対し、御家人が軍役や番役（警護）を果たすことは「奉公」と呼ばれます。
問4	答え 1 随筆：徒然草	鎌倉時代末期から南北朝時代にかけての社会の変動期に、兼好法師によって書かれた作品は『徒然草』です。これは清少納言の『枕草子』、鴨長明の『方丈記』と並び、日本三大随筆の一つに数えられます。作者の兼好法師は出家した身であり、仏教的な無常観を背景に、当時の人々の生き方や自然の美しさを独自の視点で描きました。
問5	答え 1 禅宗	鎌倉時代に宋西が宋から伝えた禅宗は、座禅を修行の基本とし、自分を見つめ直すことで悟りを目指す宗派です。この教えは、自分自身の精神を鍛えることを重視したため、当時の武士たちに強く支持されました。
問6	答え 1 元寇の防衛戦によって御家人が多大な軍費を負担したが、幕府には分け与えるための新たな土地が不足していた。	元寇は外国からの侵略を退ける戦いであり、勝利しても敵の領土を奪うことができなかったため、御家人に恩賞として与える土地がありませんでした。一方で御家人は自費で参戦したため借金が重なり、困窮した御家人が土地を手放す事態が相次ぎました。幕府はこうした事態に対処し、軍事力の基盤である御家人体制を維持しようとしたましたが、徳政令の発布は金貸し（借上）が貸し渋る原因となり、かえって経済を混乱させ、幕府への不満を強めることになりました。
問7	答え 1 平等院鳳凰堂	平等院鳳凰堂は1053年、平安時代後期の藤原氏の全盛期に建立されました。マルコ・ポーロが元（モンゴル帝国）に滞在していたのは13世紀後半であり、この時すでに平等院鳳凰堂や中尊寺金色堂といった平安文化を代表する建築物は存在していました。これら日本の華麗な仏教建築や産出される金の情報は、当時の国際交流を通じて大陸側へと伝わっていました。
問8	答え 1 借金が帳消しになることを恐れた金貸し（借上）が、御家人への融資を拒むようになり、かえって御家人の生活が苦しくなった。	幕府は御家人の救済を意図して徳政令を出しましたが、貸したお金が戻らなくなることを恐れた借上（金融業者）が御家人への融資をストップさせたため、経済が混乱しました。これにより御家人の生活はさらに困窮し、幕府に対する不信感が高まる結果となりました。
問9	答え 1 御成敗式目（貞永式目）	承久の乱の後、幕府の支配力が西日本まで及ぶようになると、各地で地頭と荘園領主との間に土地をめぐる紛争が急増しました。北条泰時は、裁判を公平に行い、御家人の権利を保障するために、これまでの慣習法を成文化しました。これは後の武家法の模範となりました。
問10	答え 1 高麗	朝鮮半島の高麗は、モンゴル帝国の激しい攻撃を受けて服従し、その後は元の日本侵攻に協力させられました。元寇の際には、高麗の軍隊も元軍とともに日本へ渡り、北九州などで戦いました。新羅や百済はそれ以前の時代の国家であり、李氏朝鮮は元の後の時代に建国された国家です。
問11	答え 1 奈良時代に行基が民衆への布教や社会事業を行い、鑑真が来日して戒律を伝えたのち、鎌倉時代に道元が座禅を重視する禅を広めた。	奈良時代、行基は橋の建設などの社会事業を通じて民衆に仏教を広め、聖武天皇による東大寺の大仏造立にも協力しました。同じ奈良時代、唐から鑑真が渡来し、僧侶が守るべき規範である「戒律」を伝え、日本における仏教制度を整えました。これに対し、道元は鎌倉時代に中国での修行を経て曹洞宗を日本に伝え、ひたすら座禅を組む「禅」の教えを広めました。活動時期の順序としては、奈良時代の行基・鑑真から鎌倉時代の道元へと続きます。
問12	答え 1 朝廷の動きを監視し、京都の警護や西国の御家人を統制する	承久の乱に勝利した鎌倉幕府は、それまでの京都守護を廃止し、より強力な権限を持つ六波羅探題を設置しました。これは、再び朝廷が幕府に対して兵を挙げないよう監視を強めることが最大の目的でした。あわせて京都の治安維持や、乱の結果没収された西国の領地における御家人の統制も担当しました。
問13	答え 1 禅宗	鎌倉時代には、社会の混乱の中で民衆や武士を救済するための新しい仏教（鎌倉新仏教）が誕生しました。その中でも、自力で悟りに到達することを目指すこの教えは、宋西が伝えた臨済宗や、道元が伝えた曹洞宗を合わせた総称として用いられます。
問14	答え 1 御成敗式目	鎌倉幕府の執権、北条泰時によって制定されたこの法律は、別名「貞永式目」とも呼ばれます。承久の乱のあと、新しく任命された地頭と従来の領主との間で土地争いが急増したことを背景に、公平な裁判の基準を示すために作られました。

いちごドリルプリント

答え合わせ・解説

問1	答え 1 臨済宗	栄西が宋から伝えたのは臨済宗です。鎌倉時代には日宋貿易を通じて新しい仏教が日本に流入しましたが、臨済宗は特に幕府との結びつきを強め、後の五山文化の発展にも寄与しました。浄土宗は法然、浄土真宗は親鸞、時宗は一遍が開いた宗派であり、これらは念仏を唱えることで救われるとする教えで、禅宗とは特徴が異なります。
問2	答え 1 他国からの侵略を防ぐ防衛戦であったため、恩賞として御家人に分け与えるための新たな領地が得られなかったから	鎌倉幕府の支配体制は「御恩と奉公」という双方向の契約で成り立っていました。通常、国内の乱などでは敗者から没収した土地を恩賞（領地）として配分できましたが、元寇は外国を追い返す防衛戦であったため、戦勝しても奪える土地がありませんでした。多額の戦費を自ら負担して戦った御家人に対し、幕府が十分な報酬を与えられなかったことが、幕府の権威を失墜させる決定的な要因となりました。
問3	答え 1 源頼朝が武士に与えた「御恩」を強調して演説し、幕府側の団結を促した。	承久の乱が起きた際、朝廷（上皇）に弓を引くことに迷う御家人に対し、北条政子は「亡き頼朝公の恩は山よりも高く、海よりも深い」と演説を行いました。この言葉により、御家人たちは幕府側として戦う決意を固め、結果として幕府の勝利と執権政治の安定につながりました。
問4	答え 1 座禅によって自ら悟りを開こうとする厳しい修行が、当時の武士の気風に合致していたから。	鎌倉時代に中国（宋・元）から伝えられた禅宗は、自らを厳しく律する座禅の修行を重視しました。この性質が、当時の武士が尊んだ潔さや忍耐、自己鍛錬といった精神的気風と深く結びついたため、北条氏をはじめとする鎌倉幕府の有力者によって厚く保護されました。他の新仏教が「信じること（他力）」を重視したのに対し、禅宗は「自らの力で悟る（自力）」という側面が強いのが特徴です。
問5	答え 1 平氏の繁栄から滅亡までの過程を描いた軍記物語であり、文字が読めない人々にも琵琶法師の語りを通じて広く普及した。	『平家物語』は「祇園精舎の鐘の声…」で始まる、平氏の興亡を描いた軍記物語です。鎌倉時代、視覚に障害のある琵琶法師たちが、琵琶の伴奏に合わせてこの物語を語り歩く（平曲）ことによって、武士や民衆の間に広く浸透しました。これは、当時の仏教的な無常観や武士の生き様を反映した武家文化の代表例です。
問6	答え 1 禅宗	鎌倉時代には、社会の混乱の中で民衆や武士を救済するための新しい仏教（鎌倉新仏教）が誕生しました。その中でも、自力で悟りに到達することを目指すこの教えは、栄西が伝えた臨済宗や、道元が伝えた曹洞宗を合わせた総称として用いられます。
問7	答え 1 壇ノ浦の戦い	山口県下関市にある壇ノ浦は、源平合戦の最終的な決戦地です。この戦いで源義経率いる源氏軍が平氏を滅ぼしたことにより、長年にわたる源氏と平氏の争いに終止符が打たれました。この勝利によって源頼朝による武家政権の樹立が確実なものとなり、日本は中世という新しい時代へと踏み出すことになりました。
問8	答え 1 禅宗	鎌倉時代に栄えた新しい仏教のうち、座禅を通じて自己を見つめ直し、自力で悟りに達しようとする教えが禅宗です。この「自力」による厳しい修行のあり方が、実力を重んじ精神的な強さを求める武士の気風に合致しました。鎌倉幕府だけでなく室町幕府も禅宗を厚く保護し、寺院の序列を定めるなどして政治・文化の両面で深く結びつきました。
問9	答え 1 朝廷側の勢力から土地を取り上げ、家臣である御家人を地頭に任命して、現地の管理や徴税を担わせる仕組みを広げた。	中世の日本では武士による支配が拡大していく過程で、幕府は地頭の任命という手段を用いました。本来、土地の管理権や徴税権は貴族や寺社が持っていましたが、幕府が自身の御家人を地頭として送り込むことで、実質的な支配権を武士の手に移していきました。これが、後の武士社会の基盤となりました。
問10	答え 1 家臣に経済的な基盤を保障することで、忠誠心を引き出し、安定した軍事力を確保するため	武士は「一所懸命」という言葉に象徴されるように、自らの土地を命がけで守る存在でした。将軍や大名は、その土地の支配を公認（安堵）するという強力な特権を与えることで、家臣たちを自身の軍事組織の中に組み込み、政権や領国の安定を図りました。これは律令国家の公地公民制とは対照的な、私的な契約に基づく社会構造です。
問11	答え 2 承久の乱のあと、武士の勢力が広がる中で急増した領地争いを、公平に裁く基準として作られた。	承久の乱によって幕府の支配力が西日本まで及ぶようになると、各地で武士と荘園領主、あるいは武士同士の土地トラブルが急増しました。北条泰時は、武士に馴染みの薄い朝廷の律令ではなく、武士独自の慣習を明文化することで、誰もが納得できる公平な裁判を行おうとしました。これがのちの武家法の規範となりました。
問12	答え 1 特定の修行に専念すれば誰でも等しく救われるという、民衆にとって信仰しやすい教えであったこと	鎌倉新仏教の各宗派は、念仏、題目、座禅といった、一つの作法を徹底して行うことを強調しました。これは、当時の戦乱や飢饉によって精神的な救いを求めている人々にとって、極めて「わかりやすい」提示でした。旧来の仏教が「学問」や「儀式」を重んじて貴族層に特化していたのに対し、新仏教は日常生活の中で「実行しやすい」修行を提示することで、爆発的に広まったという歴史的背景があります。

問1	中世から近世にかけての武家政権の変遷について述べた文として、歴史的な事実関係が正しいものはどれですか。（2024年 神奈川県公立入試 類似）			
	1. 源頼朝が鎌倉幕府を開いた後、承久の乱を経て幕府の権力は西国へ拡大し、のちに豊臣秀吉が北条氏を滅ぼして天下統一を成し遂げた。	2. 豊臣秀吉が全国を統一して地頭の権限を全国に広めた後、それに反発した後鳥羽上皇が承久の乱を引き起こした。	3. 承久の乱によって鎌倉幕府が滅亡した結果、戦国時代の混乱が始まり、その終焉とともに源頼朝が守護・地頭の設置を認めさせた。	4. 東大寺の再建を通じて武士の勢力交代が進む中、地頭の設置よりも先に豊臣秀吉による太閤検地が行われ、幕府の支配権が確立した。
問2	鎌倉時代を代表する彫刻作品のうち、東大寺南大門に安置され、筋骨隆々とした逞しい肉体と憤怒の表情、そして躍動感あふれるポーズが特徴的な一對の像の名称として正しいものはどれか。（2026年 茨城公立入試 類似）			
	1. 金剛力士像	2. 阿修羅像	3. 弥勒菩薩像	4. 鎌倉大仏
問3	ある歴史博物館では、展示室が時代の流れに沿って並んでいます。第1展示室が原始・古代、第3展示室が江戸時代を中心とした近世、第4展示室が近代・現代という構成になっているとき、鎌倉幕府や室町幕府の政治を扱う第2展示室に割り振られる時代区分として最も適切な名称を選びなさい。（2014年 愛媛公立入試 類似）			
	1. 古代	2. 中世	3. 近世	4. 近代
問4	承久の乱後の鎌倉幕府の政治体制について、幕府の組織構造や権力の仕組みを説明した文として最も適切なものを選びなさい。（2024年 茨城県公立入試 類似）			
	1. 北条氏が就く執権が将軍を補佐し、幕府の政治の実権を握る体制が強化された。	2. 将軍の下に管領が置かれ、有力な守護大名が交代で政治を統括する連合政治が行われた。	3. 幕府の最高職として老中が置かれ、京都に配置された京都所司代とともに西国を支配した。	4. 律令制度に基づく太政官制が採用され、幕府の役職と朝廷の官位が完全に統合された。
問5	香川県坂出市には、保元の乱で敗れて讃岐に流された崇徳上皇の陵墓である白峯陵があります。この崇徳上皇の歌も収められている『新古今和歌集』の編纂者として、後鳥羽上皇に選ばれた人物は誰ですか。（2021年 香川公立入試 類似）			
	1. 紀貫之	2. 藤原定家	3. 柿本人麻呂	4. 山上憶良
問6	鎌倉時代、源平の争乱によって焼失した東大寺の再建において、僧侶の重源（ちようげん）らが取り入れた建築様式に関する説明として正しいものを選びなさい。（2023年 滋賀公立入試 類似）			
	1. 当時の中国の王朝である宋の様式を取り入れ、大仏様（だいぶつよう）と呼ばれる力強い構造で再建された。	2. 1873年に徴兵令が施行されると、唐の様式を忠実に再現し、対称性を重視した優美な姿で再建された。	3. 平安時代の貴族の住宅に見られる寝殿造の様式を寺院建築に応用し、池と調和する形で再建された。	4. 元（モンゴル）の建築技術を導入し、石造りの基盤の上に大規模な回廊を持つ形式で再建された。
問7	明治時代の近代化において、西洋の技術や新しい制度は、多くの場合、首都となった東京などの東日本から導入され、そこから全国へと広がっていきました。このような文化や技術の伝播について述べた文として、正しいものはどれですか。（2025年 静岡公立入試 類似）			
	1. 1872年に新橋・横浜間で日本初の鉄道が開通した後、順次、大阪・神戸間など西日本や地方都市へと路線が拡大された。	2. 1873年に徴兵令が施行されると、まず東日本の農民が兵役に従事し、その数年後に西日本でも制度が適用された。	3. 文明開化の影響で普及した「ざんぎり頭」や「牛鍋」は、京都の伝統文化を重んじる東日本へと逆輸入される形で広がった。	4. 学制の普及により、まず東北地方で小学校の就学率が100%に達し、その後、東京や大阪などの都市部へ広がった。
問8	マルコ・ポーロが著した『世界の記述（東方見聞録）』において、当時の日本について述べられた記述として正しいものはどれですか。（2020年 埼玉県公立入試 類似）			
	1. 王の宮殿は純金でできており、屋根や床も金で敷かれているほど豊かな島国であると紹介された	2. 免罪符の販売に対して宗教改革が起こり、キリスト教の新しい宗派が誕生した地として紹介された	3. ローマ帝国が東西に分裂した影響を受け、独自の仏教文化が開花している国として紹介された	4. 種子島に鉄砲が伝来したことで、戦国大名による武力抗争が激化している様子が紹介された
問9	鎌倉時代初期、源平の争乱によって焼失した東大寺を再建するため、僧の重源が中国から伝わった新しい建築様式を取り入れて完成させた、力強く豪壮な門を何というか。（2022年 岡山公立入試 類似）			
	1. 東大寺南大門	2. 平等院鳳凰堂	3. 唐招提寺金堂	4. 法隆寺中門
問10	源頼朝が全国に守護と地頭を設置することを朝廷に認めさせた経緯と、その役割について説明した文として最も適切なものを選びなさい。（2021年 岩手県公立入試 類似）			
	1. 対立した弟の源義経を捕らえることを名目として設置し、守護は国ごとに置かれて軍事や警察の役割を、地頭は荘園などに置かれて年貢の徴収などの役割を担った。	2. 平氏を倒すための軍事費を確保するために設置し、守護は農民の教育を、地頭は外国との貿易の管理を主な役割とした。	3. 元（モンゴル）の侵攻に備えるために設置し、守護は北九州の防衛を、地頭は武器の製造と兵士の招集を主な役割とした。	4. 朝廷がもつ政治の実権を武士に取り戻すために設置し、守護は京都の警備を、地頭は天皇の身の回りの世話を主な役割とした。
問11	12世紀末の日本において、源頼朝が朝廷から許可を得て全国に設置した役職のうち、主に「国」ごとに置かれ、国内の軍事や警察、御家人の統制などの役割を担った役職の名前として正しいものを答えなさい。（2026年 広島公立入試 類似）			
	1. 守護	2. 地頭	3. 国司	4. 郡司
問12	13世紀後半、モンゴル帝国（元）のフビライ・ハンが日本に対して服属を要求してきた際、これを拒否して2度にわたる大規模な襲来（元寇）に対し、御家人を指揮して防衛にあたった鎌倉幕府第8代執権は誰か、次の中から選びなさい。（2023年 大分県公立入試 類似）			
	1. 北条時宗	2. 北条泰時	3. 北条高時	4. 足利尊氏
問13	鎌倉時代、太鼓などを叩きながら念仏を唱えて踊る「踊り念仏」を行い、全国を巡って民衆に教えを広めた僧侶は誰ですか。（2021年 香川公立入試 類似）			
	1. 一遍	2. 親鸞	3. 日蓮	4. 道元

答え合わせ・解説

問1	答え 1 源頼朝が鎌倉幕府を開いた後、承久の乱を経て幕府の権力は西国へ拡大し、のちに豊臣秀吉が北条氏を滅ぼして天下統一を成し遂げた。	日本の武家政権は、12世紀末に源頼朝が鎌倉幕府を開いたことに始まります。1221年の承久の乱は幕府の支配力が全国化する重要な転換点となりました。その後、室町幕府や戦国時代を経て、16世紀末に豊臣秀吉が小田原の北条氏を滅ぼすことで天下統一を達成しました。承久の乱は豊臣秀吉の時代よりも約360年以上前の出来事であり、時代順序を正確に把握することが重要です。
問2	答え 1 金剛力士像	鎌倉時代には、武士の台頭を背景とした力強く写実的な文化が栄えました。東大寺南大門に設置された金剛力士像は、運慶や快慶らによってわずか69日間で制作されたと伝えられており、当時の武士の気風を象徴する、迫力ある造形美を示しています。
問3	答え 2 中世	日本の歴史において、12世紀末の鎌倉幕府の成立から、16世紀後半の室町幕府の滅亡までの期間を指します。貴族による統治が中心だった古代と、兵農分離や鎖国が行われた近世の間に位置し、武士が政治の主導権を握り始めたことが大きな特徴です。
問4	答え 1 北条氏が就く執権が将軍を補佐し、幕府の政治の実権を握る体制が強化された。	承久の乱を経て幕府の権力が盤石になると、北条氏が世襲する「執権」が政治の主導権を握る執権政治が確立されました。中央組織として、軍事を担う侍所、財政や政務を担う政所、裁判を担う問注所などが整備され、実務的な統治体制が敷かれました。
問5	答え 2 藤原定家	後鳥羽上皇は自らも和歌に精通しており、当代随一の歌人であった藤原定家らを撰者に任命して『新古今和歌集』をまとめさせました。この和歌集には、保元の乱で後白河天皇と対立して敗れた崇徳上皇の歌も収められており、平安末期から鎌倉初期にかけての激動の時代背景を反映した内容となっています。
問6	答え 1 当時の中国の王朝である宋の様式を取り入れ、大仏様（だいぶつよう）と呼ばれる力強い構造で再建された。	鎌倉時代は武士が台頭した時代であり、文化の面でも力強さや写実性が重んじられました。東大寺南大門の再建にあたっては、僧侶の重源が中国（宋）の進んだ建築技術を導入しました。これは「大仏様」と呼ばれ、太い柱や梁を組み合わせた、簡素ながらも質実剛健な構造が特徴です。選択肢にある寝殿造は平安時代の貴族の住宅様式、元は鎌倉時代後半に日本に侵攻してきた王朝であり、この時代の寺院再建の主流ではありません。
問7	答え 1 1872年に新橋・横浜間で日本初の鉄道が開通した後、順次、大阪・神戸間など西日本や地方都市へと路線が拡大された。	日本の近代化におけるインフラ整備は、政治の中心地である東京（新橋）とその玄関口である横浜の間から始まりました。この鉄道開通は文明開化を象徴する出来事であり、その後、経済の拠点であった関西圏（大阪・神戸間）へ、さらに私鉄の発展とともに日本全国へと鉄道網が張り巡らされていきました。このように、新しい技術が特定の拠点（東日本）から順次全国へと広がったことは、近代化の重要な特徴です。
問8	答え 1 王の宮殿は純金でできており、屋根や床も金でふかれているほど豊かな島国であると紹介された	マルコ・ポーロは実際に日本を訪れたわけではありませんが、滞在先の元で聞いた噂をもとに、日本（ジパング）を莫大な金が産出される「黄金の国」として描写しました。この伝説的な記述は、後にコロンブスが大西洋を渡ってアジアを目指す動機の一つになったと言われていました。選択肢にある宗教改革や鉄砲伝来、ローマ帝国の分裂などは、時代背景や地域が異なる出来事です。
問9	答え 1 東大寺南大門	鎌倉時代、源平の争乱で焼失した東大寺の復興が進められました。僧の重源（ちょうげん）が勧進（寄付を募る活動）を行い、中国の宋から伝わった「大仏様（だいぶつよう）」という建築様式を取り入れて再建されたのが東大寺南大門です。この時期の文化は、新しく台頭した武士の気風を反映し、力強く質実剛健な特徴を持っています。
問10	答え 1 対立した弟の源義経を捕らえることを名目として設置し、守護は国ごとに置かれて軍事や警察の役割を、地頭は荘園などに置かれて年貢の徴収などの役割を担った。	1185年、源頼朝は対立した弟の義経を追捕するという口実で、朝廷に守護・地頭の設置を認めさせました。これにより、幕府の支配力が全国の公領や荘園に及ぶようになり、武士による土地支配の基盤が築かれました。守護は主に国単位での軍事・警察権、地頭は土地ごとの管理権や徴税権を行使しました。
問11	答え 1 守護	源頼朝は、弟の義経を捕らえることを名目に、朝廷から「守護」と「地頭」を設置する権利を認められました。守護は令制国（国）ごとに1人ずつ置かれ、主に大犯三箇条と呼ばれる軍事・警察権を行使しました。これに対し、地頭は荘園や公領ごとに置かれ、土地の管理や年貢の徴収を担いました。国司や郡司は、律令制度に基づいて朝廷から任命された地方官であり、幕府が設置したものではありません。
問12	答え 1 北条時宗	13世紀、モンゴル帝国の圧力に対し、毅然とした態度で防衛を主導したのが第8代執権の北条時宗です。彼は文永の役（1274年）と弘安の役（1281年）の2度にわたって御家人を動員し、博多湾に石築地（防塁）を築かせるなどして元軍の侵攻を阻みました。選択肢にある北条泰時は、日本初の武家法である「御成敗式目」を制定した第3代執権であり、混同に注意が必要です。
問13	答え 1 一遍	鎌倉新仏教の一つである時宗を開いた人物についての問いです。一遍は特定の寺院に留まらず、全国各地を遍歴して布教したため「遊行上人（ゆぎょうしょうにん）」とも呼ばれました。踊り念仏は、念仏の喜びを身体で表現するものであり、当時の民衆の間で爆発的に流行しました。

1. 御恩 2. 知行 3. 封建 4. 寄進

1. 女子も相続の対象に含まれており、親の領地を分散して受け継ぐことができた。	2. 長男一人がすべての領地を独占し、他の兄弟や女子は一切の財産を得られなかった。	3. 領地はすべて幕府が一度回収し、軍功のあった者だけに改めて分配された。	4. この方法は御家人の基盤を安定させたため、室町時代以降も広く推奨された。
---	---	---------------------------------------	--

1. 元寇防塁（石築地） 2. 台場 3. 山城 4. 環濠

1. 源平の争乱による焼失後、重源が宋の建築様式を取り入れて再建にあたり、武士の好む力強い様式で造られた。
2. 藤原頼通が極楽浄土の様子を再現しようと建立したもので、平安時代末期の貴族文化の華やかさを示していた。
3. 聖武天皇が国ごとに建立を命じた国分寺の中心的な建物として、唐の建築技術を駆使して奈良時代に完成した。
4. 禅宗の普及に伴い、室町幕府の支援を受けた僧侶たちが、簡素で落ち着いた雰囲気の中興様を用いて建てた。

1. 承久の乱の後、地頭と領主の間で増えていた土地をめぐる紛争に対し、公平な裁判の基準を示すため。
2. 蒙古襲来に備えて、御家人たちの団結を強めるために軍役の義務を強化しようとしたため。
3. 朝廷が定めた律令制度を完全に廃止し、全国のすべての階層に適用される新しい統一法を作るため。
4. 徳川氏による幕藩体制を維持するために、天皇や公家の行動を厳しく制限しようとしたため。

1. 承久の乱 2. 保元の乱 3. 平治の乱 4. 応仁の乱

1. 承久の乱 - 六波羅探題 2. 承久の乱 - 侍所 3. 保元の乱 - 六波羅探題 4. 平治の乱 - 評定衆

1. 分割相続 2. 単独相続 3. 惣領制 4. 永仁の徳政令

1. 御家人に京都を警備する義務（京都大番役）を指揮・催促し、謀反や殺人などの犯罪者を取り締まる。
2. 全国の田畑の面積を調査し、収穫量に応じた年貢を計算して幕府に報告する。
3. 外国との貿易を管理し、博多などの港で輸出入される品物に課税する。
4. 農村の冠婚葬祭などの行事を主催し、農民の生活全般を細かく規制する。

1. 禪宗 2. 淨土宗 3. 時宗 4. 日蓮宗

1. 守護 2. 地頭 3. 国司 4. 検非違使

1. 朝廷側の勢力から土地を取り上げ、家臣である御家人を地頭に任命して、現地の管理や徴税を担わせる仕組みを広げた。
2. 諸国に守護大名を配置し、各地域の行政権と徴税権のすべてを幕府が一括して管理する中央集権体制を確立した。
3. 有力な農民を御家人として組織し、朝廷の許可なく全ての荘園を没収して武士の私有地とする法令を施行した。
4. 大陸との貿易利益を背景に、各地の国司をすべて廃止して、幕府が直接任命した役人による直接統治を開始した。

1. 音楽や踊りを伴う親しみやすい方法で、特別な修行をせずとも救われると説いたから

2. 幕府の厚い保護を受け、武士の義務として踊り念仏を強制したから

3. 厳しい座禅や学問を重視し、知的な階層からの支持を集めたから

4. 念仏を唱える対価として、寺院が民衆に金銭や食料を配布したから

1. 单独相続 2. 分割相続 3. 均等割当 4. 永代譲渡

答え合わせ・解説

問1	答え 1 御恩	鎌倉将軍と御家人の結びつきは、互いに利益を与え合う「御恩と奉公」の関係に基づいています。将軍側が行う、御家人の本領安堵（所領の保証）や新恩給与（新たな土地の付与）をまとめて御恩と呼びます。これに対し、御家人が命がけで戦うことや幕府の役職に就くことを奉公といいます。
問2	答え 1 女子も相続の対象に含まれており、親の領地を分散して受け継ぐことができた。	鎌倉時代初期の「分割相続」では、女子にも領地を分ける権利が認められていたことが大きな特徴です。しかし、この仕組みは世代が進むにつれて個々の御家人が持つ領地を著しく減少させることになり、元寇（モンゴル襲来）による出費などの負担も重なって、御家人の生活を苦しめる要因となりました。その結果、時代が下るにつれて長男などが一括して受け継ぐ「単独相続」へと変化していきました。
問3	答え 1 元寇防塁（石築地）	文永の役（1274年）でモンゴル軍の集団戦法や火器に苦戦した鎌倉幕府は、再度の襲来に備えて九州の御家人らに命じ、博多湾の海岸線約20kmにわたって石垣を築かせました。これを元寇防塁、または石築地（いしつじ）と呼びます。幕府はこの防備により、2度目の襲来である弘安の役（1281年）において元軍の上陸を阻止することに成功しました。
問4	答え 1 源平の争乱による焼失後、重源が宋の建築様式を取り入れて再建にあたり、武士の好む力強い様式で造られた。	東大寺南大門は、源頼朝の支援を受けた重源によって再建されました。当時の中国（宋）の最新技術である「大仏様」を採用し、太い円柱を何本も貫（ぬき）でつなぐ堅牢な構造が特徴です。これは当時の武士たちの質実剛健な好みに合致していました。他の選択肢は、平等院鳳凰堂、奈良時代の建立背景、室町文化（禅宗様）の説明であり、時代や特徴が異なります。
問5	答え 1 承久の乱の後、地頭と領主の間で増えていた土地をめぐる紛争に対し、公平な裁判の基準を示すため。	承久の乱の結果、幕府の支配力が西日本にも及びましたが、それに伴い地頭と貴族などの荘園領主との間で土地トラブルが多発しました。執権の北条泰時は、武士の慣習に基づいた明確な判断基準を設けることで、御家人たちに公平な裁判を保証し、幕府への信頼を高めることを狙いました。
問6	答え 1 承久の乱	鎌倉幕府の3代将軍・源実朝が暗殺された後の混乱を機に、後鳥羽上皇が執権の北条義時を討つよう命じて起こした反乱です。幕府軍が勝利した結果、朝廷を監視するために六波羅探題が設置され、幕府の支配力が西日本にも強く及ぶようになりました。応仁の乱は室町時代に起こった戦いです。
問7	答え 1 承久の乱 - 六波羅探題	1221年に起きた承久の乱は、源実朝が暗殺された後の混乱に乗じて後鳥羽上皇が朝廷の権力を取り戻そうとした戦いです。幕府側は北条政子の演説などで御家人の団結を促して勝利しました。戦後、幕府は朝廷の監視や京都の警備、さらに西日本の武士を統治することを目的として、京都に六波羅探題を設置し、支配体制を固めました。
問8	答え 1 分割相続	鎌倉時代には、一族の長である惣領を中心に、領地を子に分け与えて継承させる制度が行われていました。当時は女性にも相続権が認められていた点が特徴的ですが、この方式は世代交代を繰り返すごとに一人が所有する領地が狭くなっていくという課題を抱えていました。
問9	答え 1 御家人に京都を警備する義務（京都大番役）を指揮・催促し、謀反や殺人などの犯罪者を取り締まる。	御成敗式目の中では、守護の職務を「大犯三箇条（だいほんさんかじょう）」と呼ばれる重要な職務などに限定していました。具体的には、御家人を催促して京都を警備させることや、謀反人・殺害人の逮捕といった治安維持が中心です。これは、守護が荘園の管理に不当に介入して、荘園領主（貴族や寺社）と対立することを防ぐ狙いもありました。
問10	答え 1 禅宗	鎌倉時代に成立した新仏教の中でも、座禅による修行を重視する教えは禅宗と呼ばれます。栄西によって伝えられた臨済宗や、道元によって伝えられた曹洞宗がその代表です。これらは「自力」の教えを強調しており、他者の救済を念じる浄土信仰などとは対照的な性格を持っていました。
問11	答え 1 守護	源頼朝が1185年に朝廷に認めさせて設置した役職です。国ごとに1人ずつ配置され、主に「大番催促（京都の警備役の割り当て）」や「謀叛人・殺害人の逮捕」といった軍事・警察権を行使しました。一方、荘園や公領ごとに置かれ、土地の管理や年貢の徴収を行った役職は地頭です。
問12	答え 1 朝廷側の勢力から土地を取り上げ、家臣である御家人を地頭に任命して、現地の管理や徴税を担わせる仕組みを広げた。	中世の日本では武士による支配が拡大していく過程で、幕府は地頭の任命という手段を用いました。本来、土地の管理権や徴税権は貴族や寺社が持っていましたが、幕府が自身の御家人を地頭として送り込むことで、実質的な支配権を武士の手に移していきました。これが、後の武士社会の基盤となりました。
問13	答え 1 音楽や踊りを伴う親しみやすい方法で、特別な修行をせずとも救われると説いたから	鎌倉時代までの伝統的な仏教は難解な理論や厳しい修行が中心でしたが、一遍は踊りという娯楽的な要素を取り入れ、「阿弥陀仏に身をゆだねれば誰もが極楽浄土へ行ける」という簡潔な教えを説きました。この分かりやすさと親しみやすさが、日々の生活に追われる庶民に受け入れられた背景にあります。
問14	答え 2 分割相続	武士の所領は一族の財産と考えられていたため、鎌倉時代の中頃までは女子も含めた複数の子に領地を分ける「分割相続」が行われていました。この仕組みは、子たちに公平に財産を分けるものでしたが、数世代後には1人あたりの領地が極端に狭くなるという欠点がありました。その結果、武士としての奉公（軍役）を果たすことが困難なほどに困窮する者が現れたため、室町時代になると、一族の力を維持するために一人の相続人がすべてを継承する「単独相続」へと変化していきました。